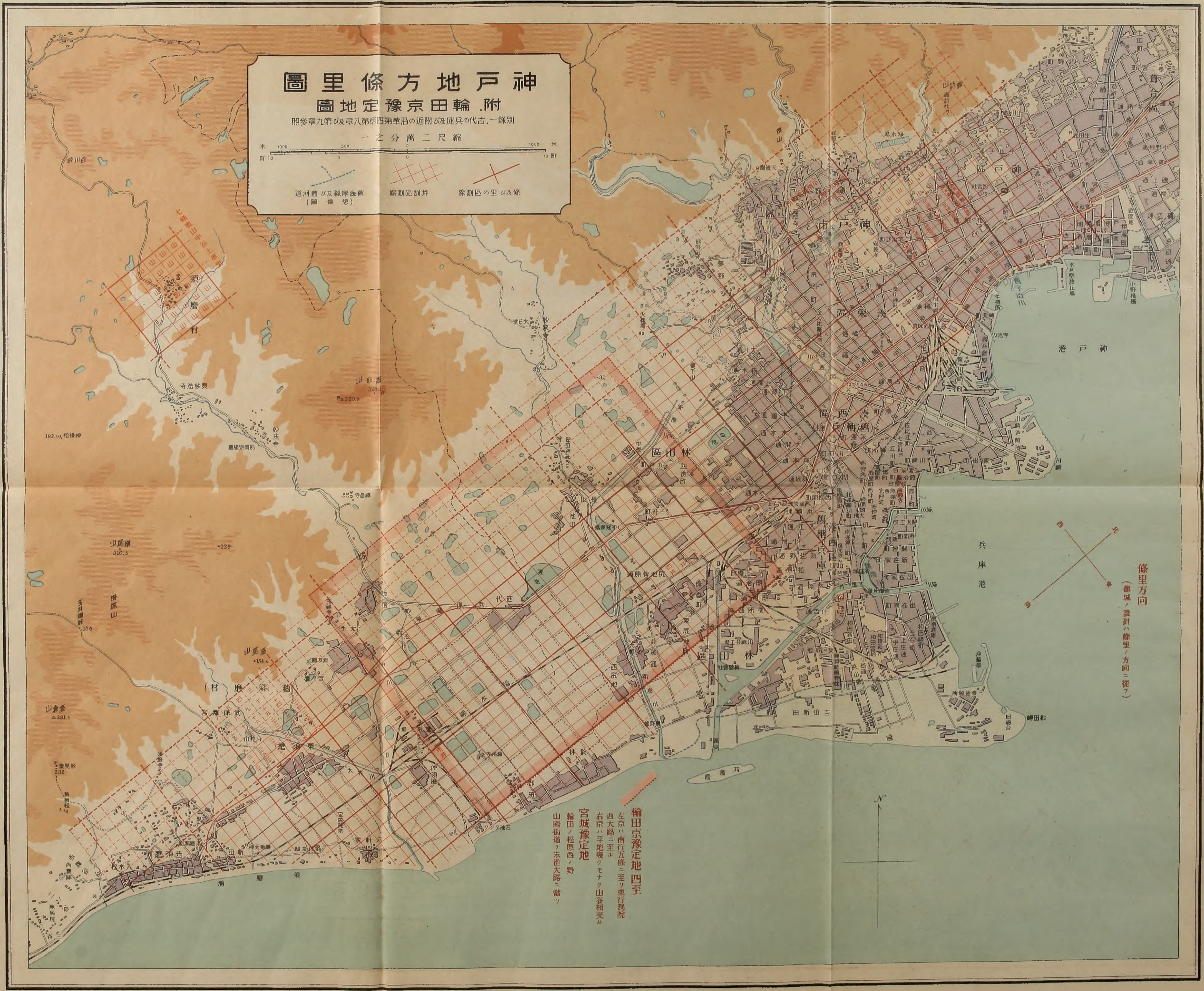
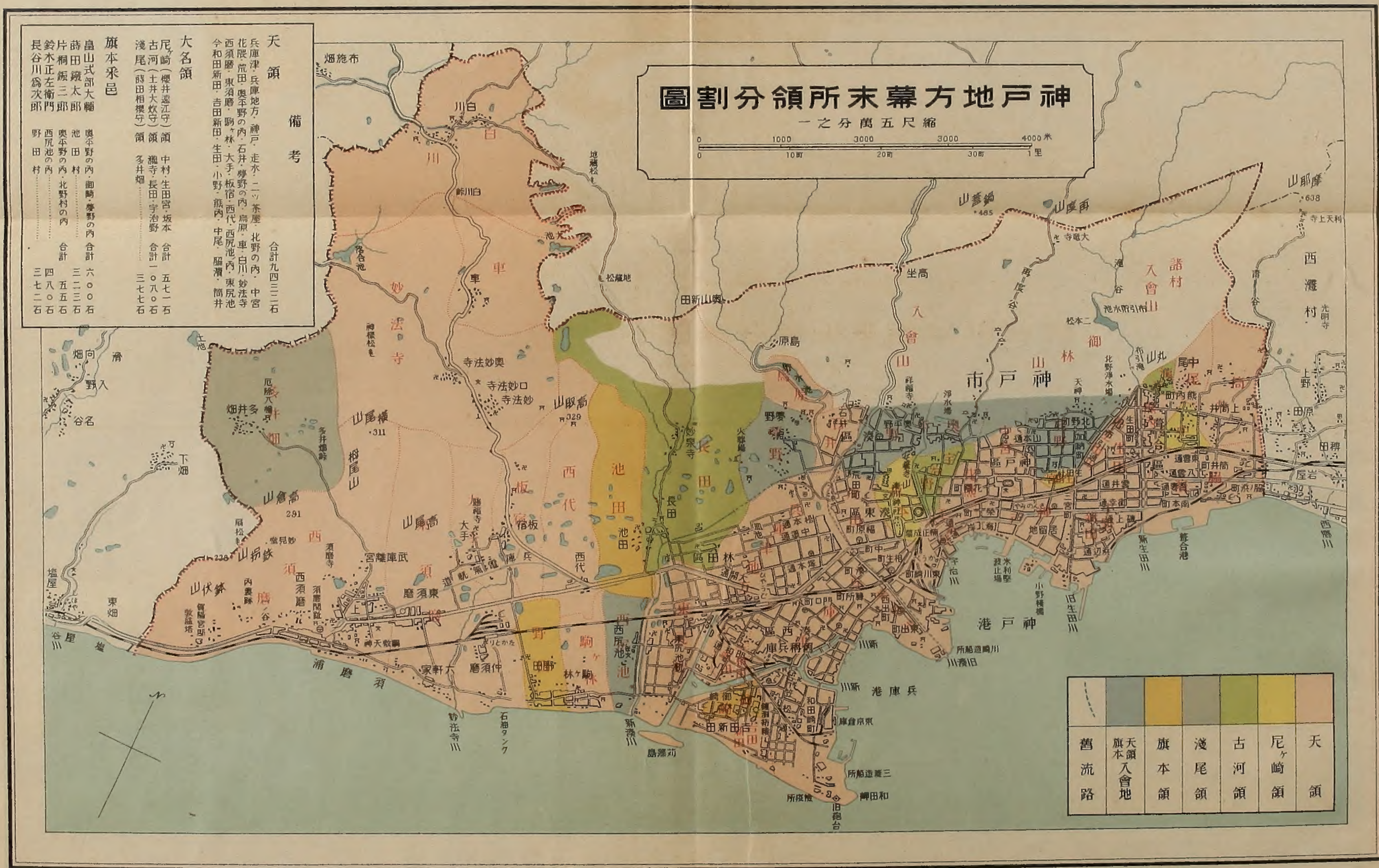
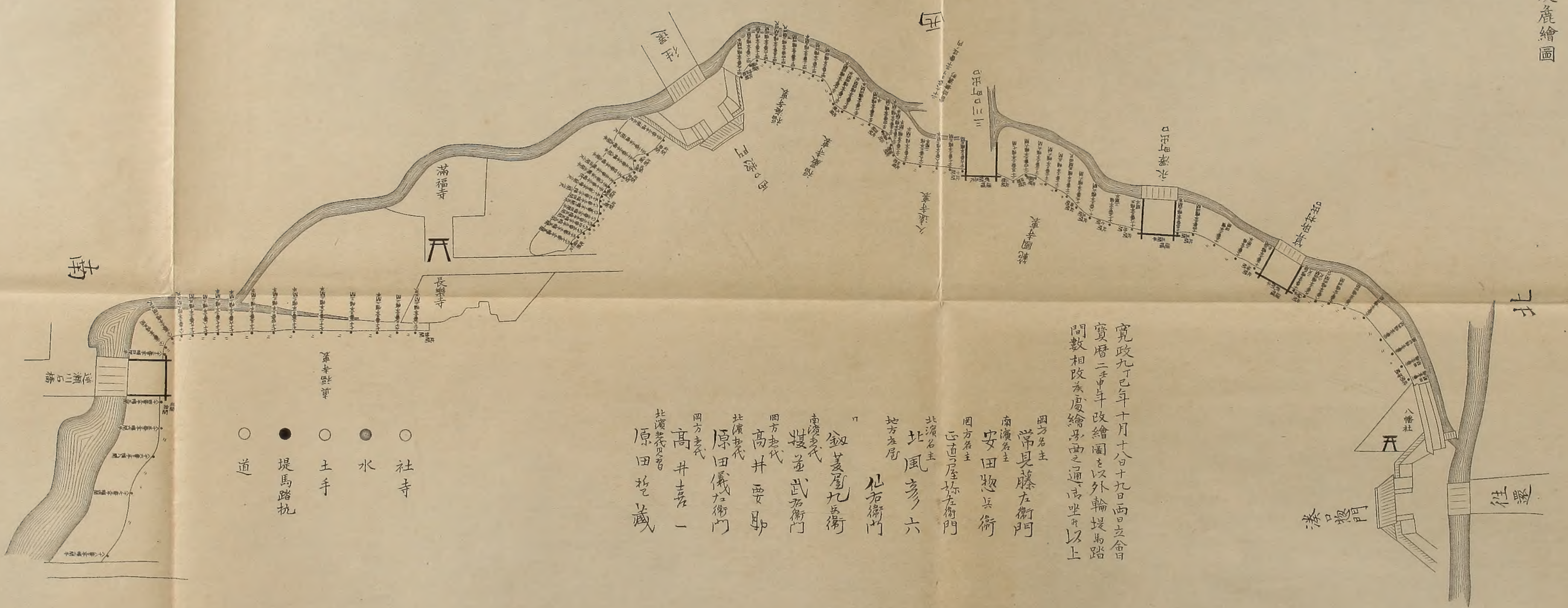


神戸地方條里圖
附.輪田京豫定地圖
別錄一.古代の兵庫及び附近の沿革第四章第八章及び第九章參照
縮尺二萬分之一
條及び里の區劃線
坪割區劃線
舊海岸線及び舊河道
(想像圖)
條里方向
(都城ノ設計ハ條里ノ方向ニ從フ)
輪田京豫定地四至
左京ハ南行五條ニ至リ東行洞院
西大路ニ至ル
右京ハ平地盡クルモナク山谷相交ル
宮城豫定地
輪田ノ松原西ノ野
山陽街道ヲ朱雀大路ニ當ツ
神戸港
兵庫港



神戸地方幕末所領分割圖
縮尺五萬分之一
0 1000 2000 3000 4000米
0 10町 20町 30町 1里
備考
天領
兵庫津・兵庫地方・神戸・走水・二ッ茶屋・北野の內・中宮
花隈・荒田・奧平野の內・石井・夢野の內・烏原・車・白川・妙法寺
西須磨・東須磨・駒ヶ林・大手・板宿・西代・西尻池の內・東尻池
今和田新田・吉田新田・生田・小野・熊內・中尾・脇濱・筒井
合計九四三二石
大名領
尼ヶ崎（櫻井遠江守）領 中村・生田宮・坂本 合計 五七一石
古河（土井大炊守）領 瀧寺・長田・宇治野 合計一〇八〇石
淺尾（蒔田相模守）領 多井畑 三七七石
旗本采邑
畠山式部大輔 奧平野の內・御崎・夢野の內 合計 六〇〇石
蒔田鐵太郎 池田村 三二三石
片桐飯三郎 奧平野の內・北野村の內 合計 五五五石
鈴木正左衛門 西尻池の內 四八〇石
長谷川爲次郎 野田村 三七二石
天領
尼ヶ崎領
古河領
淺尾領
旗本領
天領旗本入會地
舊流路
神戸市
神戸港
兵庫港
須磨浦

兵庫津外輪堤麁繪圖



南
北
西
滿福寺
長樂寺
八幡社
湊口總門
寛政九丁巳年十月十八日十九日両日立會
寶暦二壬申年改繪圖を以外輪堤馬踏
間數相改候處繪圖面之通り御座候以上
岡方名主 常見藤左衛門
南濱名主 安田惣兵衛
岡方名主 正直屋孫左衛門
北濱名主 北風彦六
地方庄屋 仙右衛門
鍛菱屋九兵衛
南濱年寄代 撰並武右衛門
岡方年寄代 高井要助
北濱年寄代 原田儀左衛門
岡方年寄代 高井嘉一
北濱年寄見習 原田哲蔵
社寺
水
土手
堤馬踏杭
道



明治弐巳年
兵庫書林 中屋與兵衛
同 油屋庄五郎
同神戸 多田屋善九郎
大阪書林 河内屋喜兵衛
同 秋田屋市兵衛
同 柏原屋平兵衛
同 小島屋伊兵衛

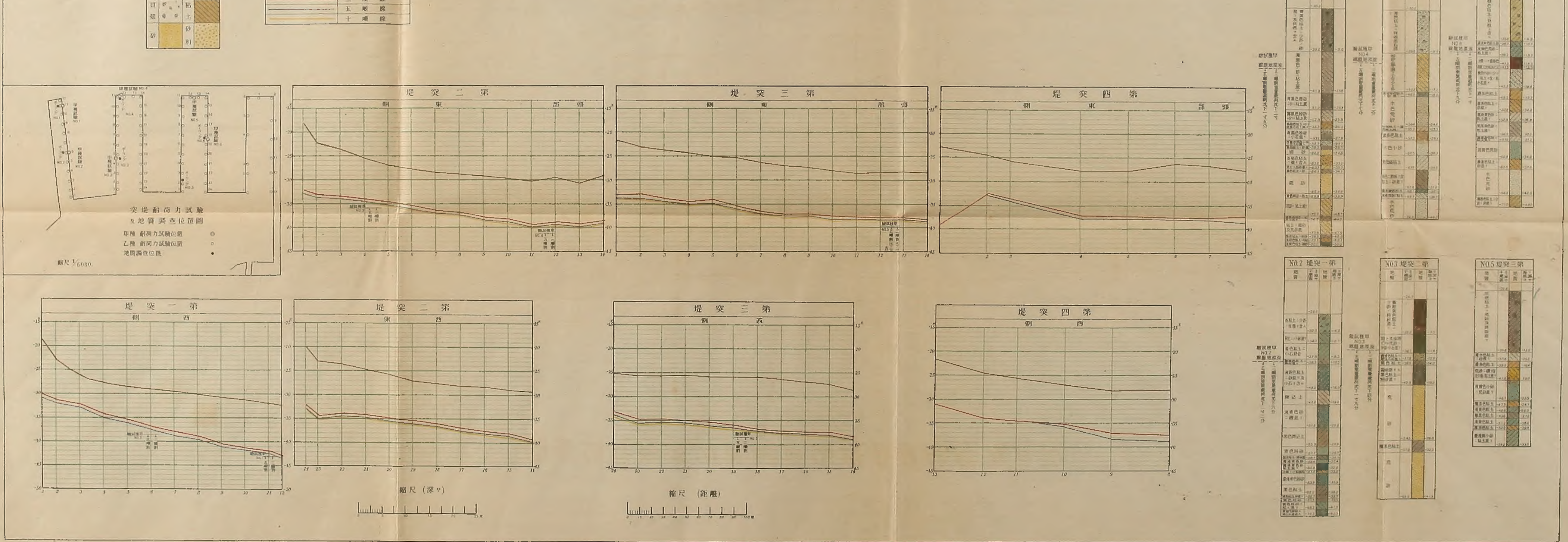
神戸港沿岸利用状況調査圖

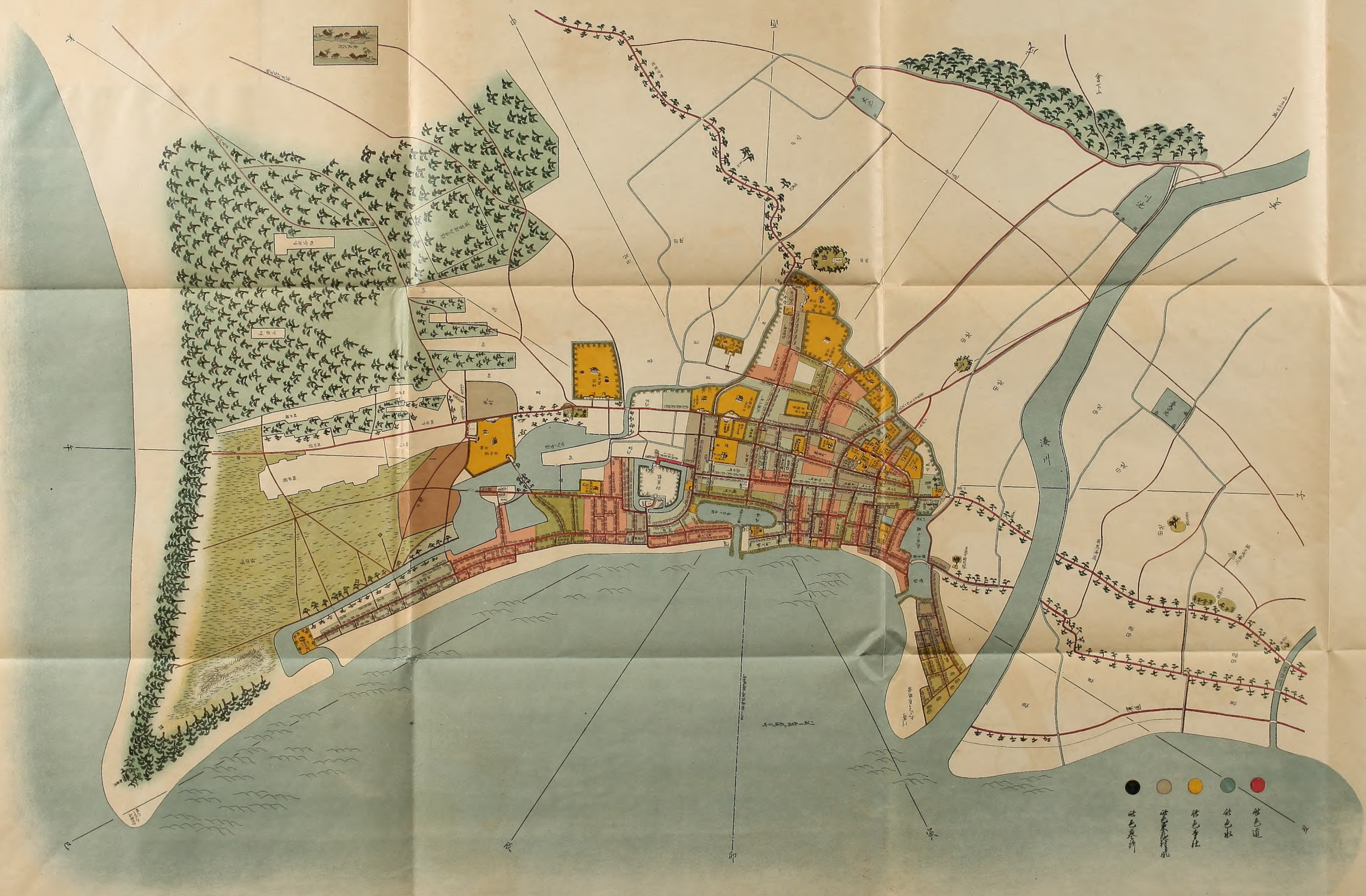
大正七年




海
川

神戸港繫船壁基礎海底耐荷力及地質調査圖




湊川
此色道
此色水
此色寺社


武庫地方遺物遺蹟分布圖
別録古代の兵庫及附近の沿革 第參章參照
縮尺五萬分之一
米 1000 0 1000 2000 4000 米
町 10 5 0 10 20 30 1 町
石器時代遺物發見地
銅鐸發見地
古墳所在地
既ニ破壊セラレタルモノモ其ノ遺蹟ノ明カナルモノハ便宜之ヲ圖示ス
本圖ハ神戸市及ビ其ノ以西ノモノハ主トシテ神戸史談會員福原潜次郎氏ノ調査ニヨリ其以東ノモノハ主トシテ西宮史談會員吉井太郎氏ノ調査ニ基ヅキテ調製ス
喜田貞吉識
神戸市
神戸港
兵庫港
武庫郡
六甲村
本山村
精道村
住吉村
御影町
本庄村
西灘村
大社村
甲東村
今津村
大庄村
鳴尾村
明石郡
垂水村
大阪灣


北
南
東
西
平野村
北野村
神戸内城ヶ口
中宮村
熊内村
生田村
墓地
荒田村
坂本村
花熊村
宇治野村
外國人居留地
墓地
書林
神戸松屋町 多田屋善九郎
大阪心斎橋通北久太郎町 河内屋喜兵衛
同 南久宝寺町 小嶋屋伊兵衛
同 塩町四丁目 柏原屋平兵衛

慶應四年戊辰四月新板

神戸市史附圖

凡例

一、本附圖は市史本編及び別錄の參考に資し、併せて其記述を補はむが爲めに刊行せるものなり。

一、本附圖選擇に當り、諸方より其襲藏の材料數百點を提供貸與せられたれど、收め得たるものは僅に其一部分に過ぎざるは遺憾とする所なり。

一、本附圖中には大圖を甚しく縮小したるものあり、輪廓を示すに足る程度に複製せるもあり、原本を完全に臨寫し得ざりしもの、原本の雅致を損ぜるもの、選擇其宜しきを得ざるもの又これなしとせず。其他原本に彩色を施せるものにして、便宜上之を寫眞版となし、其構圖を窺ふに止めたるもの甚多きは已むを得ざる所とす。

一、折疊地圖十枚を袋入として末尾に附せり、地圖中其調製につき喜田文學博士、森垣工學博士を煩はせるものあり、特に感謝の意を表す。

神戸市史附圖

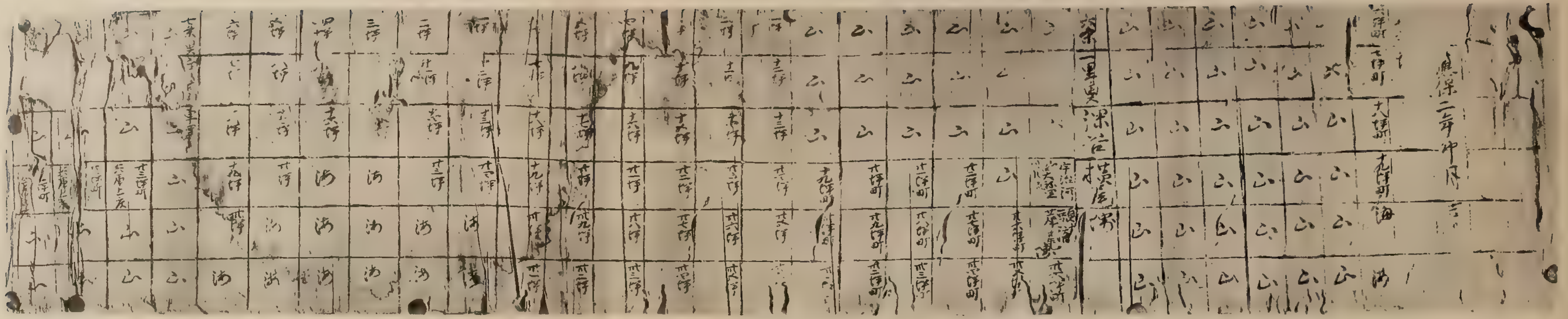
目次

圖書

袋入地圖

第一圖

兵庫條里圖斷簡 (神戸市 舊奥平野村藏)



原本には「應保二年卯月吉日」とあり。奈良朝時代條里圖の斷片を集めて貼付せるものにかゝり、中に其序を誤れるもあり。さはれ之を以て往古神戸附近の條里を推すべく、又輪田京豫定地研究の資料とすべし。

長四尺
幅八寸一分

第二圖

元祿七年兵庫附近繪圖



（神戸市　野口勝也氏藏）

主として兵庫地方の圖にして、元祿七年訴訟に關して天領及び畠山民部大輔知行所たる夢野村役人と尼崎領たる兵庫津役人と立會調査の上京繪師人見長右衛門をして作製せしめしものなり。

第三圖

伊能忠敬測量圖（攝津國の一部）



（水路部藏）

この圖は複製圖によれるものにして、文化年中の實測にかゝる。

第四圖



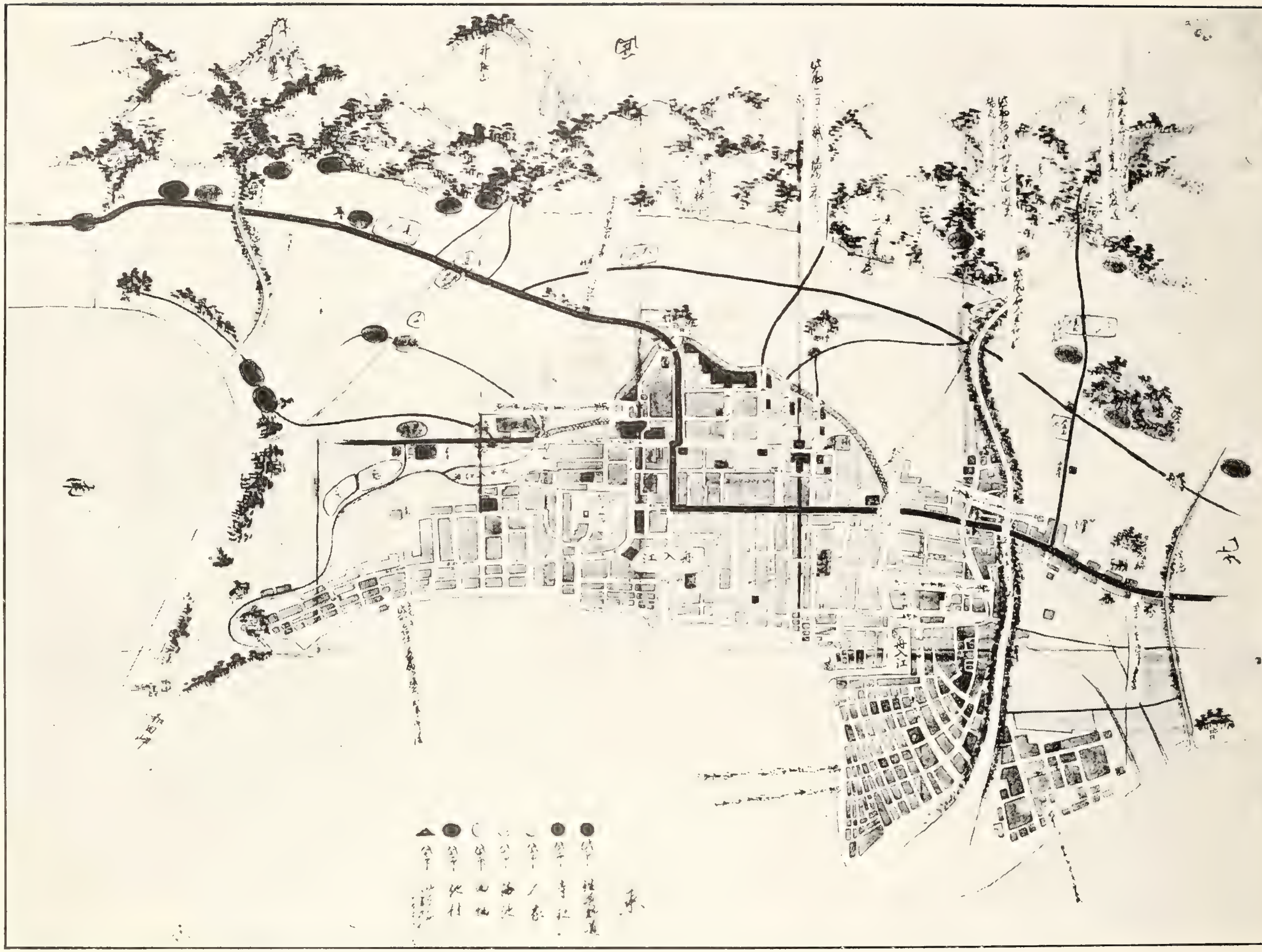
天保中の武庫菟原八部三郡繪圖

（大藏省藏）

天保中の調査に係る御國繪圖の一部なり。

第五圖

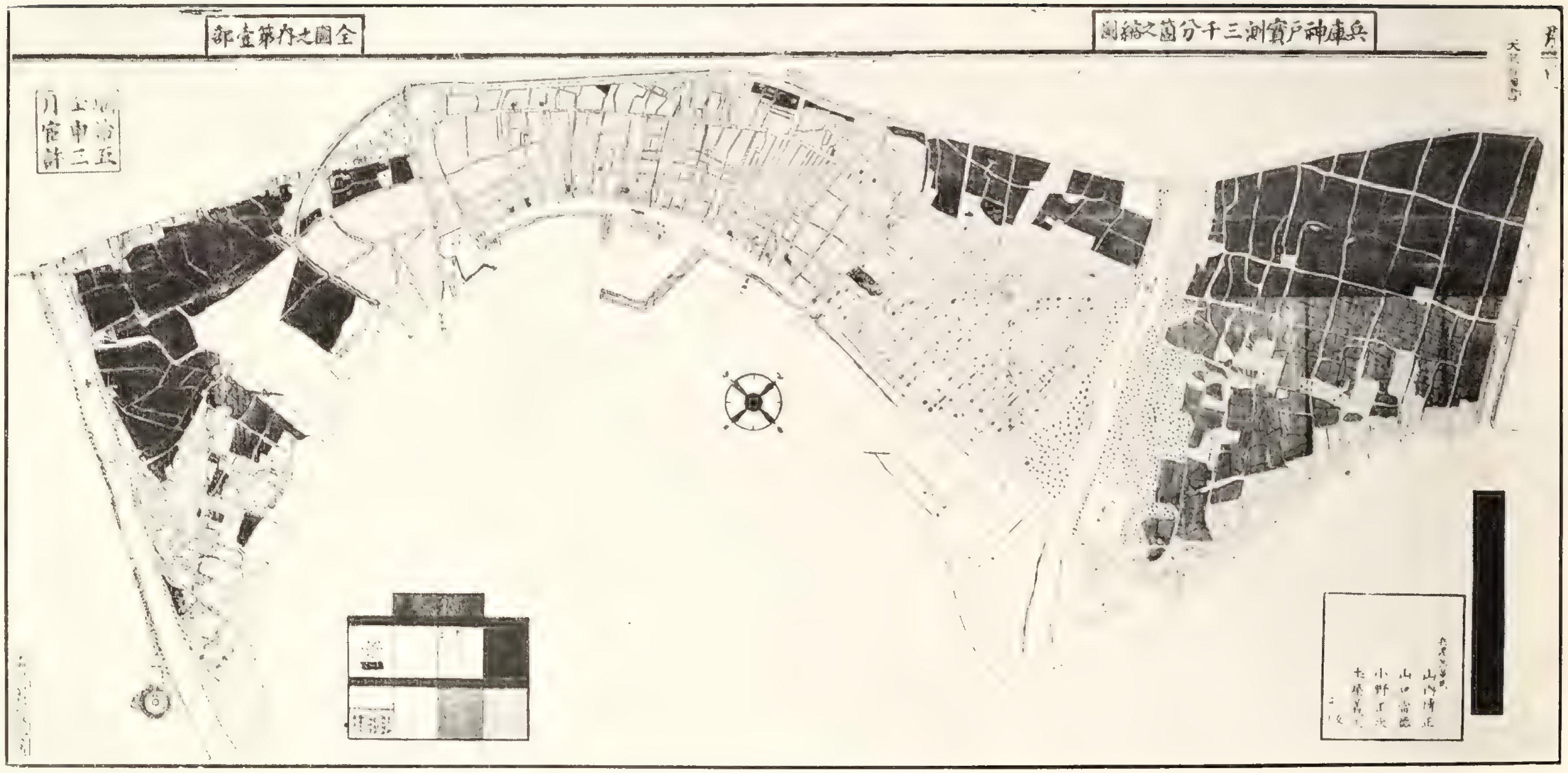
文久二年兵庫津繪圖



（早稲田大學圖書館藏）

棰井らく氏藏元祿九年の圖と對照し徳川時代に於ける市街發展の狀況を知るに足るべきものなり。

第六圖



明治五年神戸町繪圖（大藏省藏）

原圖は地理寮の實測にかゝる三千分一の地圖にて明治五年三月大阪にて板行せるもの、其標題には「兵庫神戸」とあれど、今兵庫の部を缺く。本寫眞にて黒く見ゆるは田畑等なり。當時居留地既に成り、生田川附替を了れるも、鐵道線、神戸・三宮兩停車場等未だ成らず、榮町の大道路も着手を見ず、狹隘なる元町通が東西に通ずる要路たりし狀を見るべし。

第七圖

明治十年兵庫神戸地圖　　（大藏省藏）



開港後約十年間に亙れる道路改修、新市街開設、河川附替、運河掘割等の大工事により、兵庫・神戸兩市街爲めに面目を新にせるの狀を見るべし。此圖は藤井忠弘の製圖にて、十年八月神戸相生町熊谷幸介の出版に係る。

第八圖

明治十四年神戸區地圖



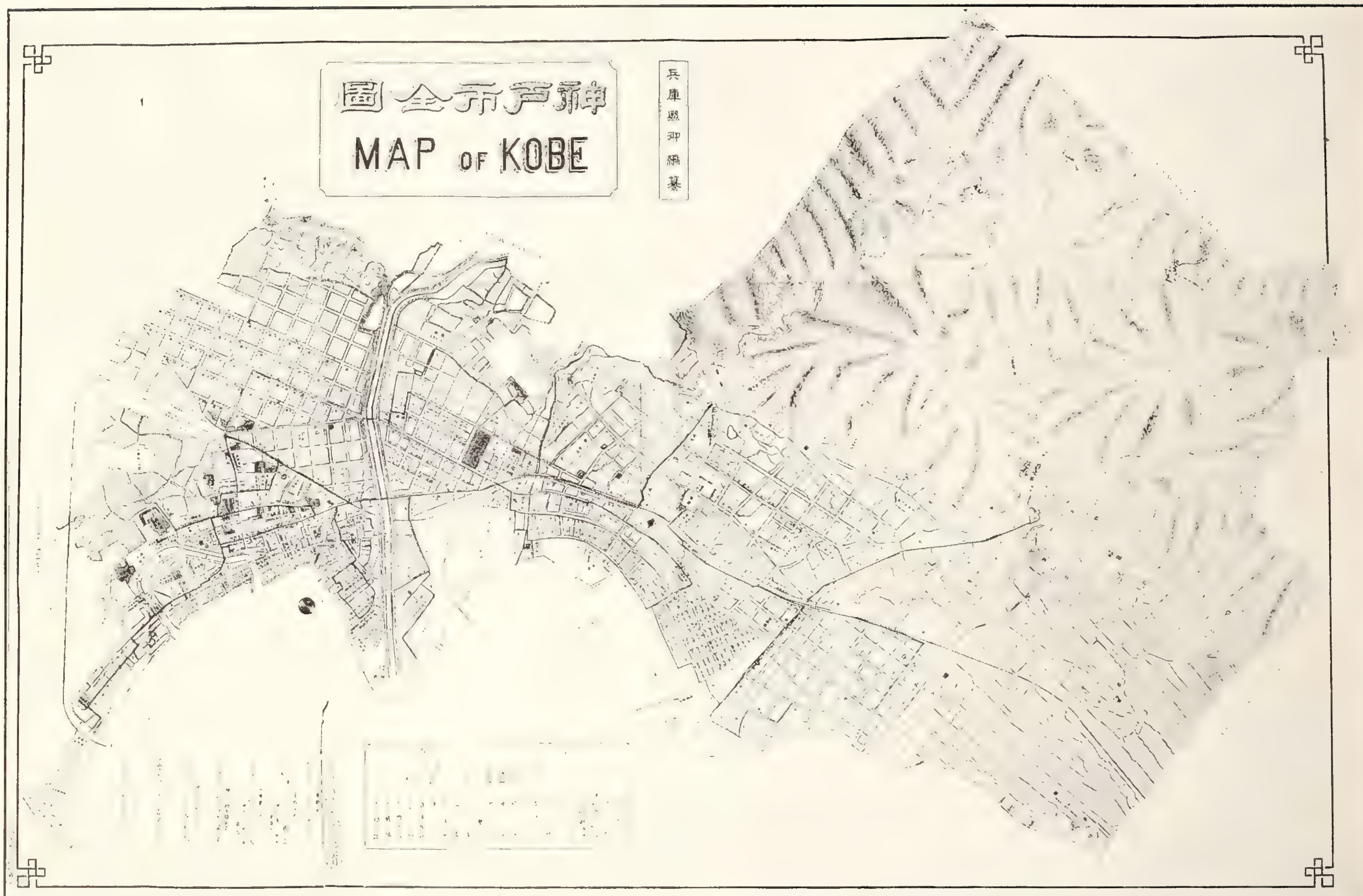
（神戸市役所藏）

原圖は地理局が明治九年三月實測に著手し、十年二月完了、十四年二月印行せしもの。十二年一月郡區町村編制法施行により兵庫神戸の二區合して神戸區となる。本圖は併合以前遠からざる時代の状況を知るべきもの。

第九圖

明治二十四年神戸市地圖

（神戸市　神田兵右衛門氏藏）



本圖出版二年前明治二十二年四月神戸に市制を實施し、新に荒田村と葺合村とを市に編入したり。此圖は卽ち其市域の擴張と兵庫背面の新市街開設の狀とを知るべきもの。

第十圖

明治三十年神戸市地圖

（神戸市役所藏）



此圖製作の前年卽ち明治二十九年四月新に八部郡湊村（奥平野・石井・夢野・烏原四ケ村）林田村・長田・東尻池・西尻池・駒ケ林・野田の五ケ村及び池田村（須磨村の内）を市に編入したり　又此前後には兵庫運河の工事成り所在に新市街開設せられたり。

第十一圖



明治四十二年神戸市地圖

（神戸市役所藏）

東は葺合方面西は湊西區方面に新に市街を現出し市街電車の一部開通し湊川附替工事の成れる狀を見るべし

第十二圖

大正七年神戸市地圖

（神戸市役所藏）



市街開設の工事殆ど成り、市街電車も開通し築港も大半完成に近つける狀を見るべし。

第十三圖

奥平野三領入組繪圖

（神戸市松本ヨネ氏藏）



奥平野村は天領（一九六石二二九）畠山上總介（維新の頃畠山木久麿、二〇四、八五六）片桐成三郎（維新當時錄三郎、二八、一六六）の三領交錯す　本圖は天保中の入組繪圖複本に據る。

第十四圖

明治初年神戸東町繪圖



（大藏省藏）

神戸市の東の一部（今の鯉川筋以西、元町・榮町・海岸通各三丁目以東、鐵道以南に當る）の繪圖にして明治三・四年頃民部省地理局の製圖に係る。

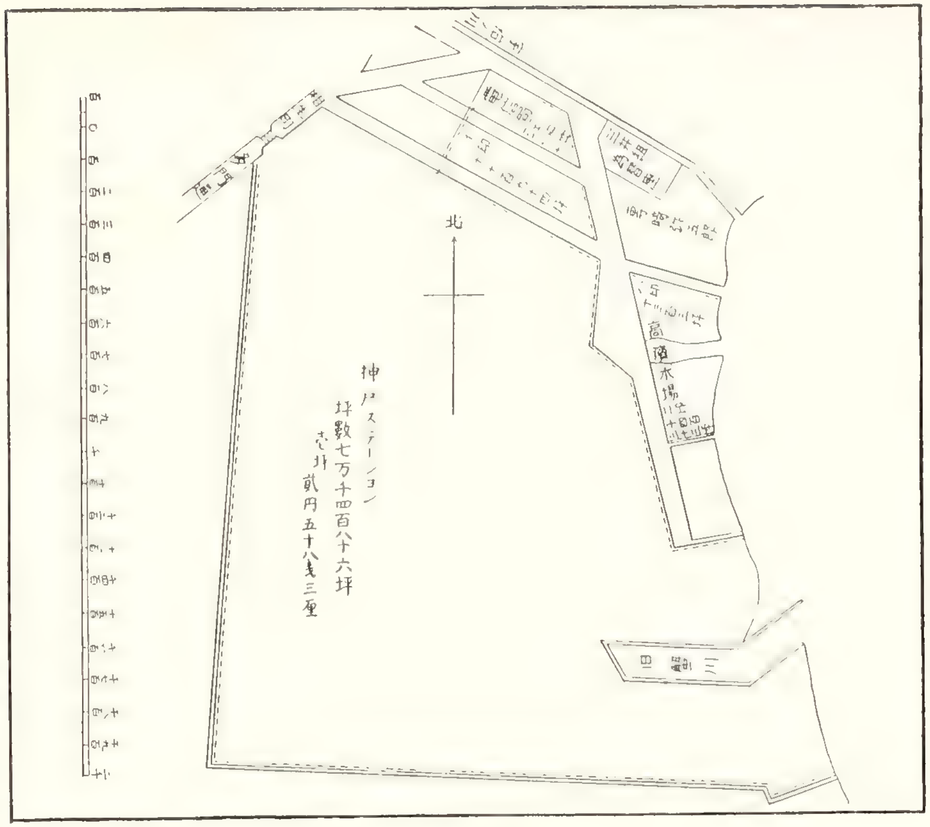
第十五圖



諏訪山附近繪圖

（神戸市 神田兵右衞門氏藏）

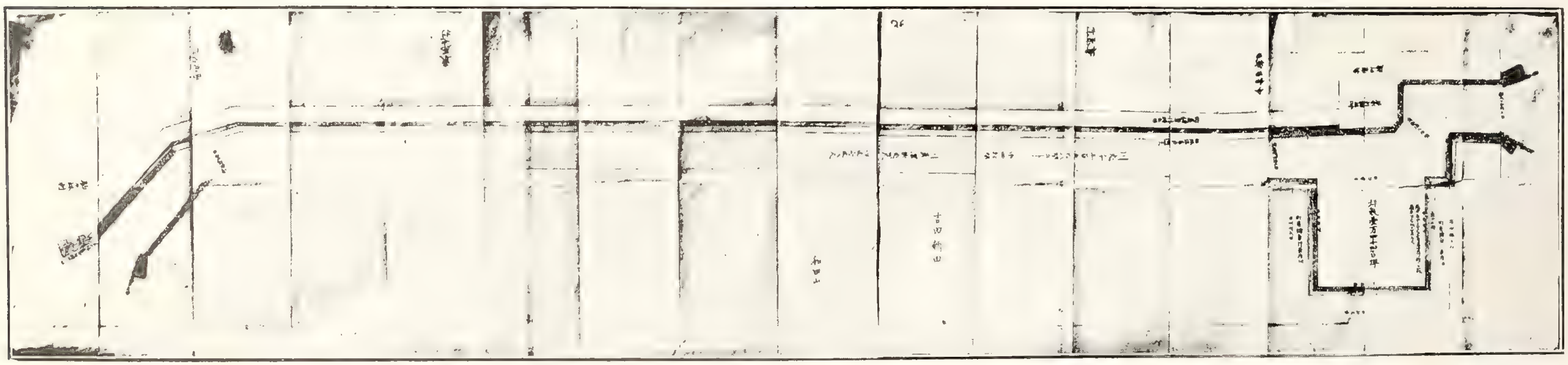
原圖には「諏訪山異人屋敷」とあり、明治五年此附近を外國人に貸與したれば恐らくは其當時の地圖なるべし。



神戸驛平面圖

（神戸市 藤田鈸吉氏藏）

明治七年神戸驛の地域全く決定し汽車運轉す。此圖は金生（藤田）積中の同年四月神戸鐵道寮にて寫せるものにかゝる。



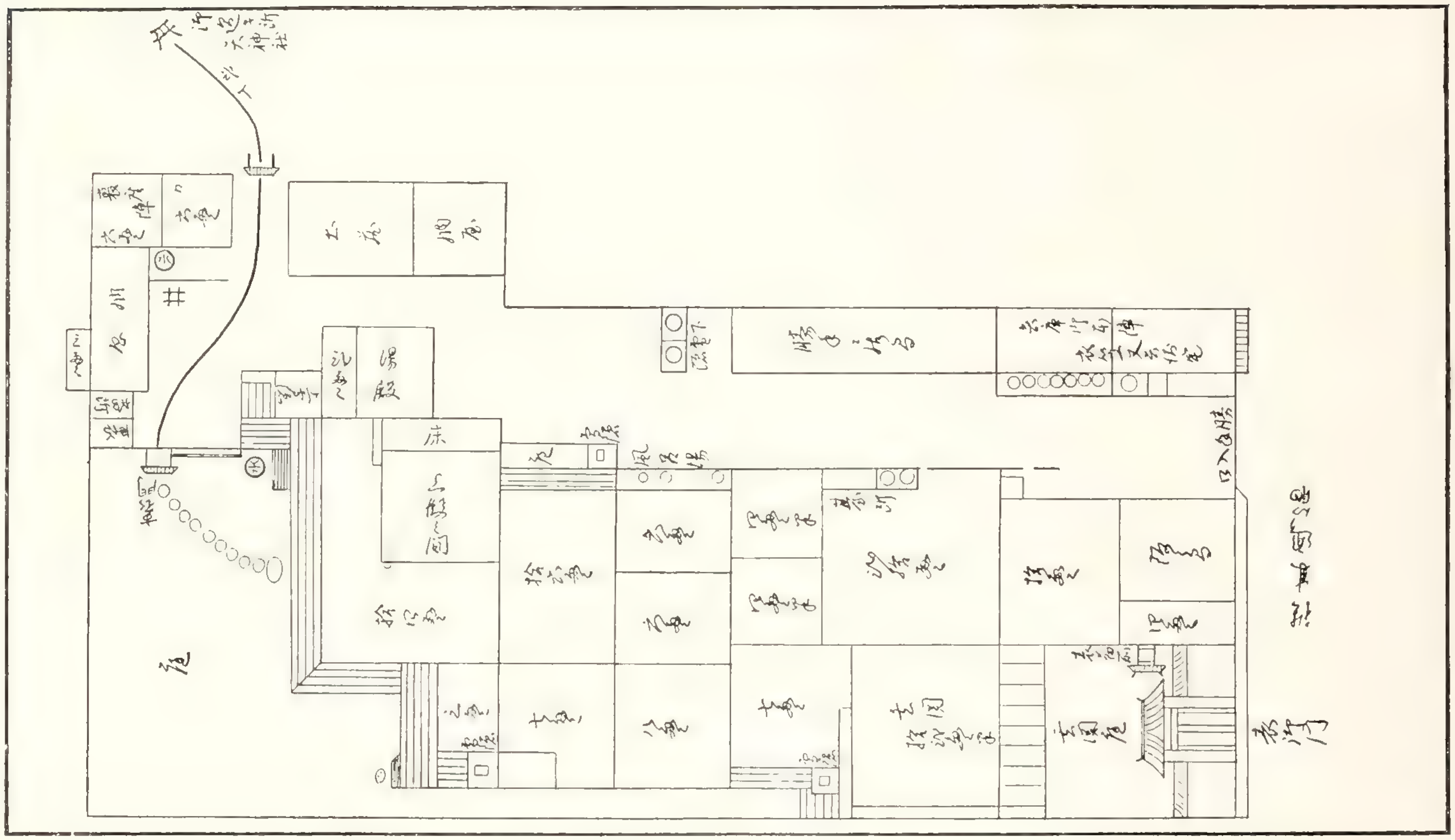
兵庫堀割設計圖

（神戸市 神田兵右衞門氏藏）

明治五年神田兵右衞門等兵庫港より今和田御崎東尻池・西尻池諸村を過ぎ、駒ヶ林海岸に通ずる堀割を計畫す。延長千三百六十餘間、幅四十間、深二丈四尺。此計畫は資金の爲めに阻まれて施工を見ざりけれど、明治七年に成れる兵庫新川、明治三十二年に成れる兵庫運河は共に此計畫に端を發せり。

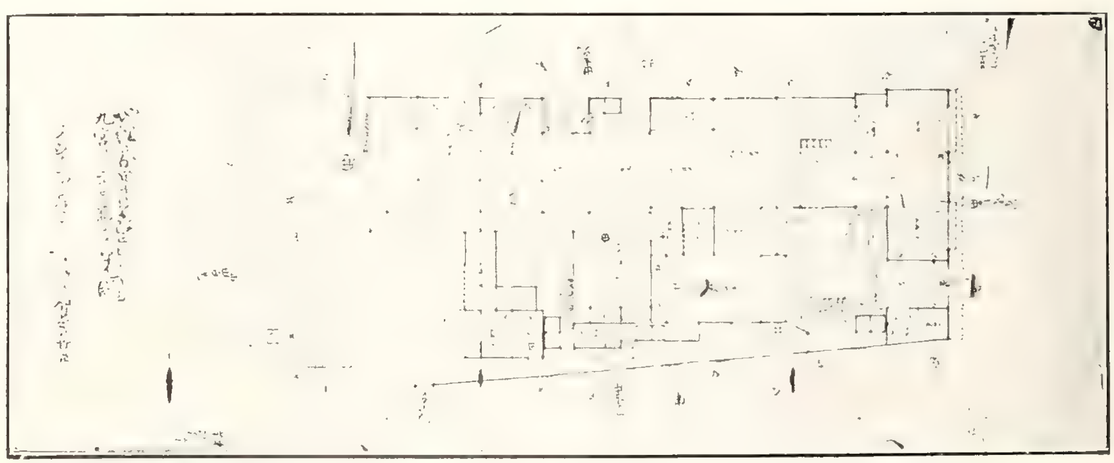
第十六圖

兵庫津宿本陣平面圖
（兵庫縣御影町　塚本龍三氏藏）



兵庫津には宿本陣の外に脇本陣及濱本陣あり。宿本陣は井筒屋（衣笠又兵衛の家にして、其維持の爲には津中より年々米十石を與へ、幕府よりも若干の手當を下附して之を保護せり。

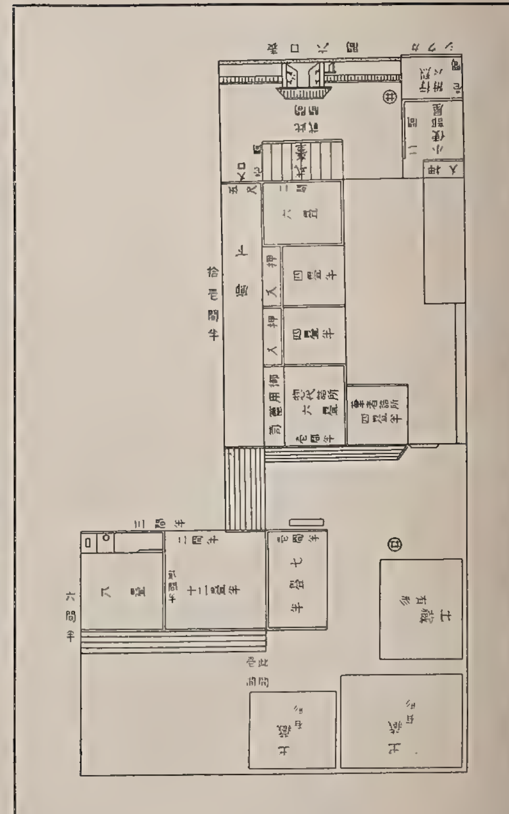
兵庫津濱本陣繪屋平面圖
（兵庫縣御影町　鷹見保信氏藏）



兵庫津の濱本陣は特異のものにして、多くは諸侯專用の本陣たると共に其用達を兼ね幕末には九軒あり　繪屋鷹見右近右衛門も濱本陣にて、福岡外五藩の用達を兼ねたり。本圖は文政中の同家の平面圖なり

第十七圖

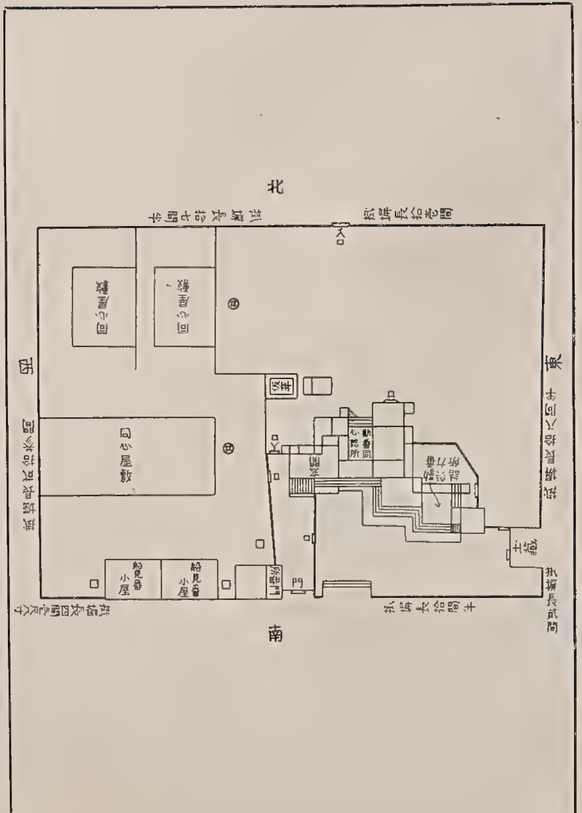
兵庫惣會所平面圖



（神戸市　舊明親館藏）

兵庫津は岡方、南濱、北濱の三方に分れ、各會所あり、本圖は岡方惣會所にして小物屋町にあり。明治六年明親館廢絕後其館名を此に移し、又湊西區有財產管理所となす。

兵庫勤番所平面圖



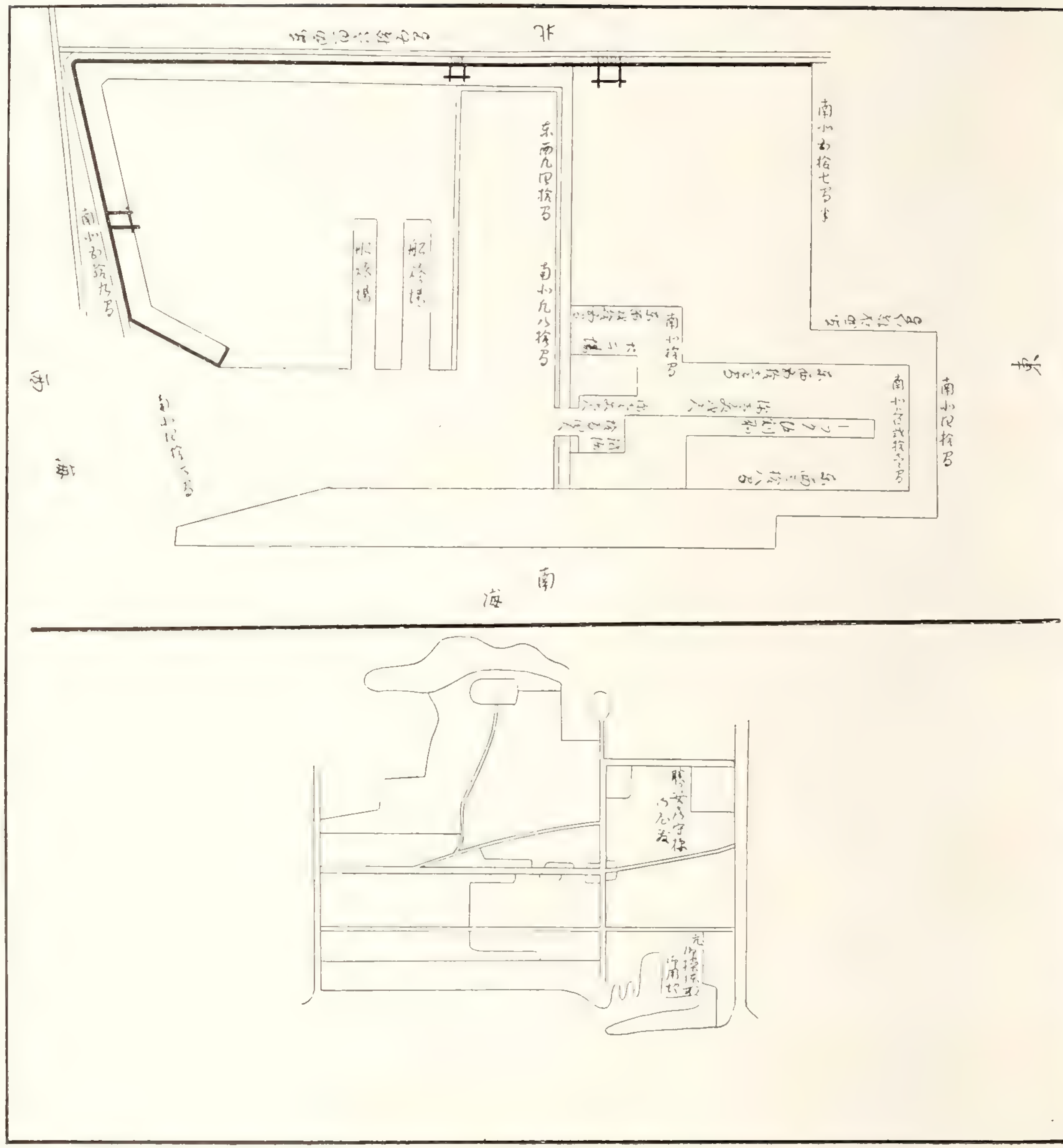
（大阪市　下間寅之助氏藏）

明和以降兵庫津の天領となるや、大阪町奉行所兵庫勤番所を切戸町に設けて之を管す。本圖は寛政元年江戸表へ書上の書類に添附せるもの〻複本に據る。明治元年兵庫鎭臺に當て、後裁判所及縣廳に充て又鄕學明親館の校舍となせしことあり。明治七年新川を鑿てる時川敷となる。

第十八圖

神戸海軍操練所平面圖

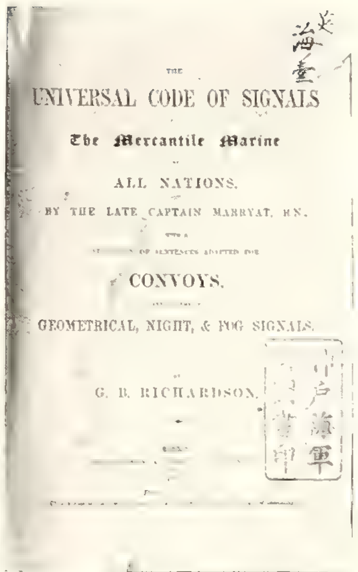
（神戸市役所藏）



神戸海軍操練所は神戸村の内今の神戸税關構内にあり、勝安芳の建議により元治元年二月竣功せしも、慶應元年三月廢止となる。其地域一萬七百餘坪、明治元年英國領事館に貸與し、同七年操練所建物を拂下け、一部を湊山小學校建築に充つといふ。今其瓦、柱、破風等同校に藏す。　本圖は舊桃木武平氏所藏操練所繪圖の復本に據れり

神戸海軍操練所舊藏圖書

（東京市　南葵文庫藏）



THE UNIVERSAL CODE OF SIGNALS

The Mercantile Marine

ALL NATIONS.

BY THE LATE CAPTAIN MARRYAT, R.N.

CONVOYS,

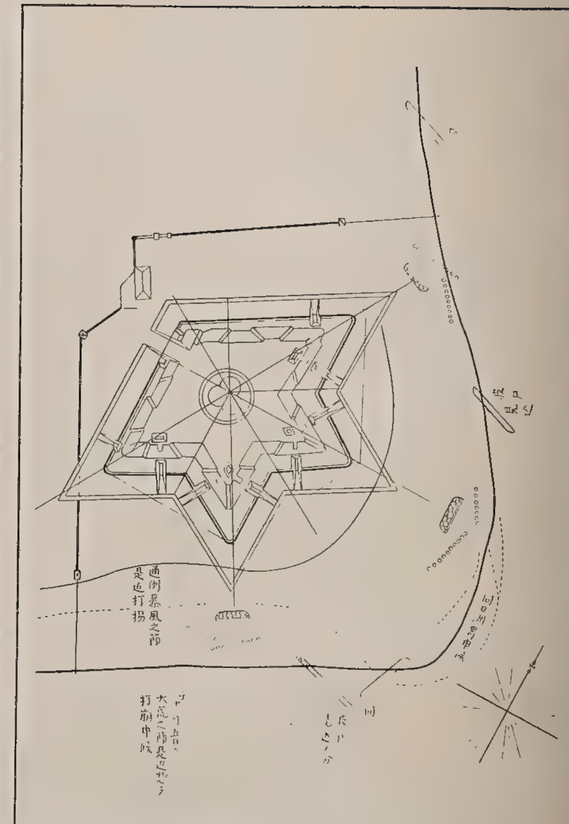
GEOMETRICAL, NIGHT, & FOG SIGNALS.

G. B. RICHARDSON.

一八六一年（文久元年）ロンドンにて發行せる商船の信號法規に關する書籍

第十九圖

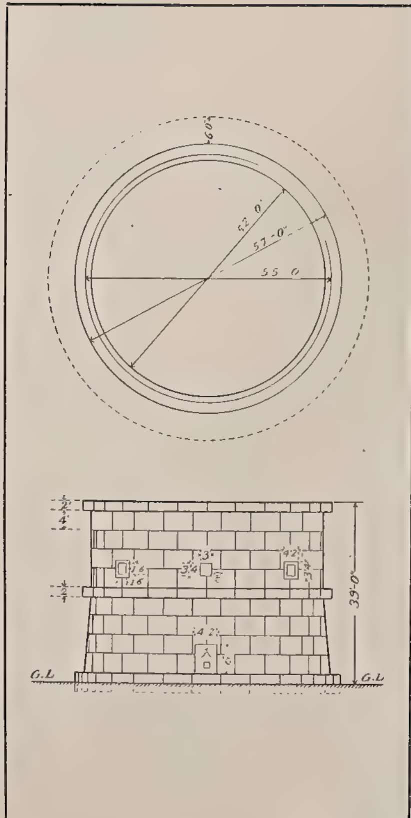
和田砲臺平面圖



（勝安芳著　陸軍歷史上卷所收）

幕末攝海の要地に砲臺建築のこと定まるや、神戸にては湊川尻及和田岬兩所に築造す。和田岬砲臺は文久三年四月起工、元治元年八月竣功、經費凡二萬五千兩、神田兵右衛門其出納に當る。當時中央の砲臺を石堡塔と稱し、外部の星光形砲墩は芦根土を以て築くといふ。

石堡塔實測圖

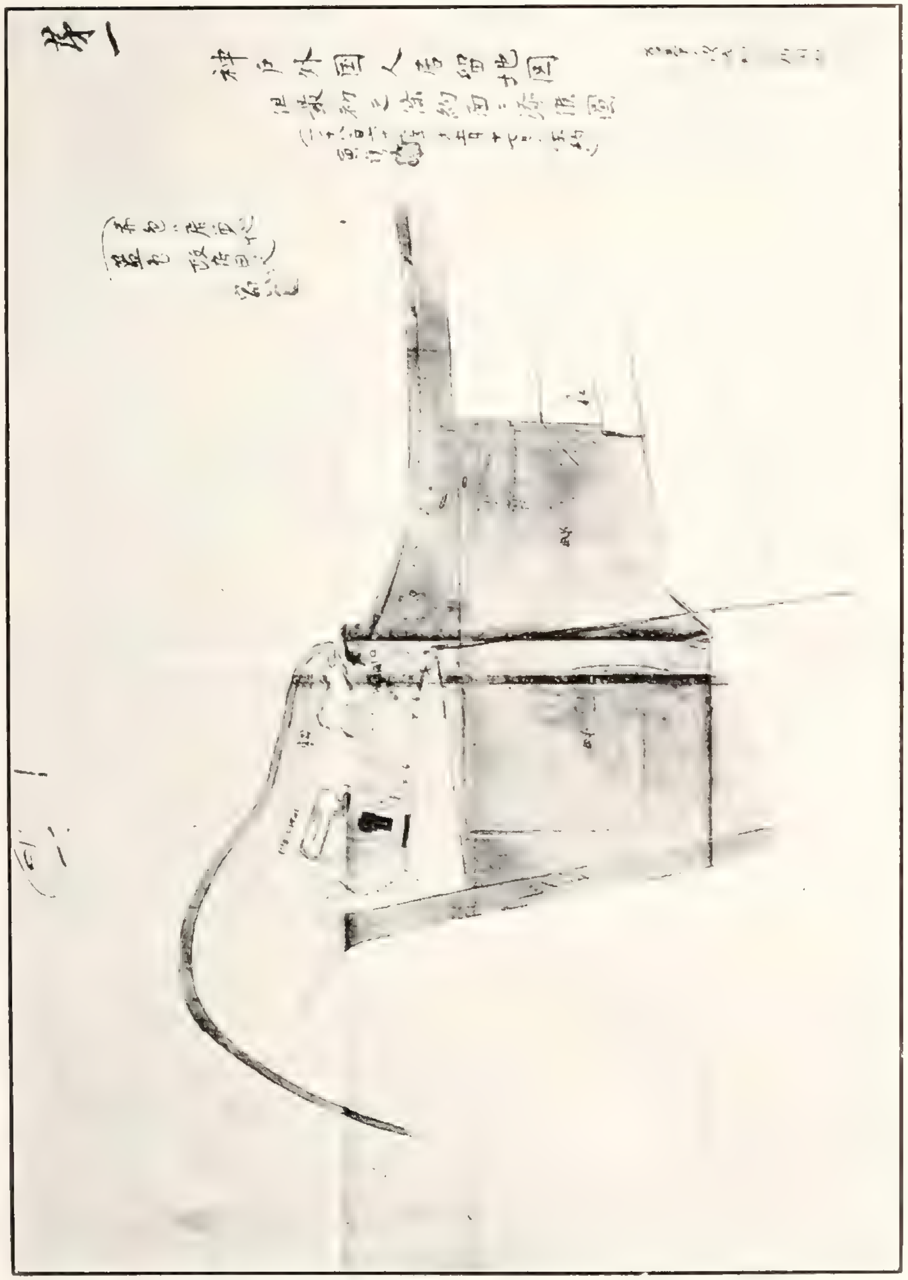


（神戸三菱造船所藏）

本圖は右圖中央にある所謂石堡塔にして、大正七年の實測にかゝる。其實測によれば、「石堡塔は花崗石を以て積上げ、其一箇の大サ長六尺五寸、幅四尺七寸五分、高四尺、外部には漆喰厚三寸を施し、天端には約一尺五寸を施せり。內部の構造は木材（槻）を主材とし、構造を二層とし、其中央地盤に徑三尺五寸餘の井戸あり、彈藥庫となり居たる模樣なり」とあり。

第十二圖

一八六七年五月神戸外國人居留地域圖　（大藏省藏）



兵庫開港に先ち居留地設定の要ありしを以て一八六七年（慶應三年）五月十七日神戸村の内（生田川以西鯉川以東國道以南海岸迄）を居留地と定む。本圖は即ちこれにして多くは畑地より成る。中に神戸村船入場あり燈明臺あり塚あり。圖中黑き一劃は舊海軍操練所趾にして開港と同時に英國領事館に貸與せらるものなり。

最初の居留地區劃圖　（大藏省藏）
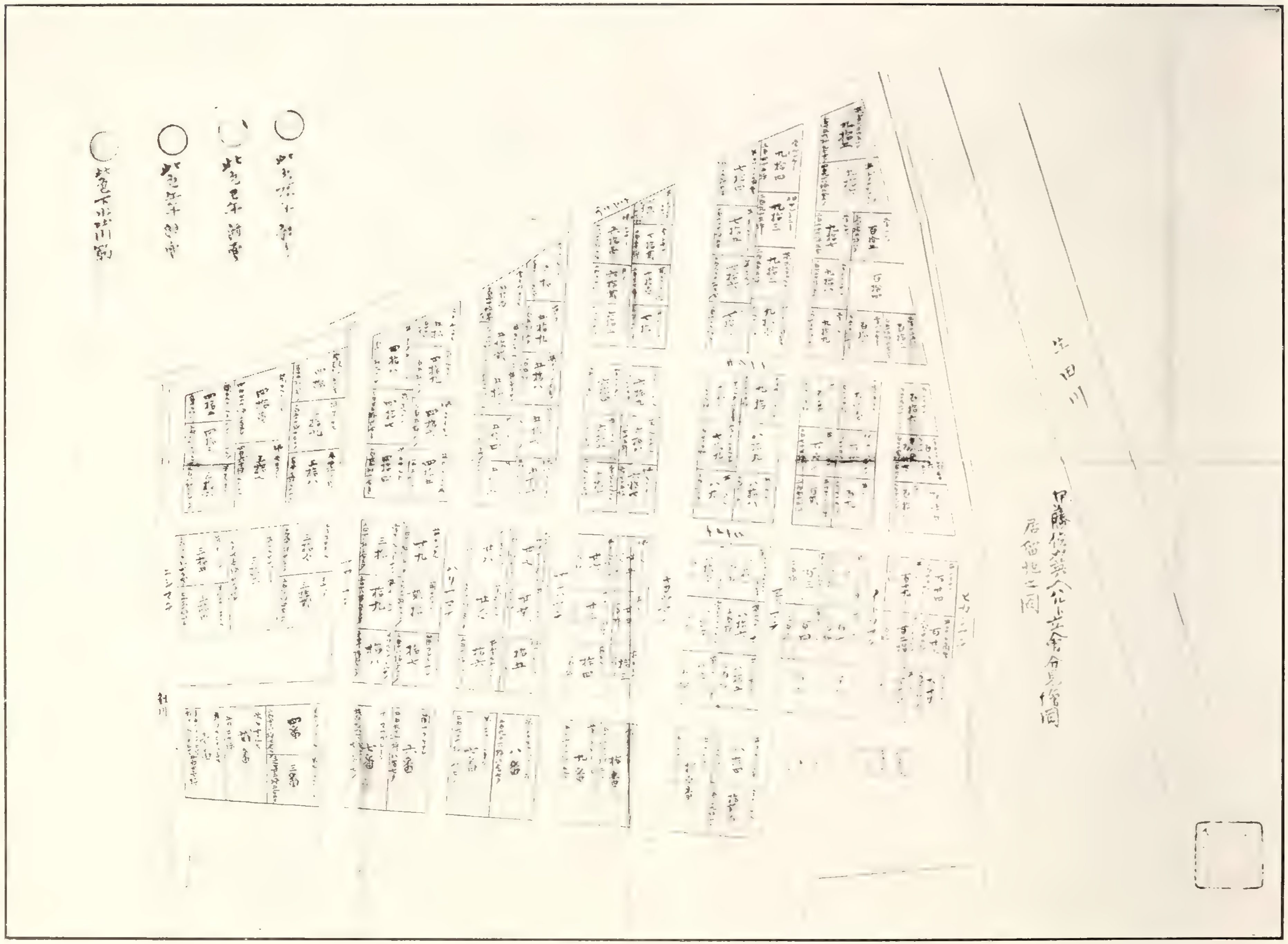


兵庫居留地圖は初め英國公使が一八六七年（慶應三年）技師キャピテン・シー・ジ・ロツク外二名をして實測せしめ之を幕府に提出し之によりて地域略決すといふ。本圖は同年十一月横濱港ジャパン・ヘラルド關係者の板行せるものにて居留地を九十八區に分てり。

第二十一圖

神戸居留地圖

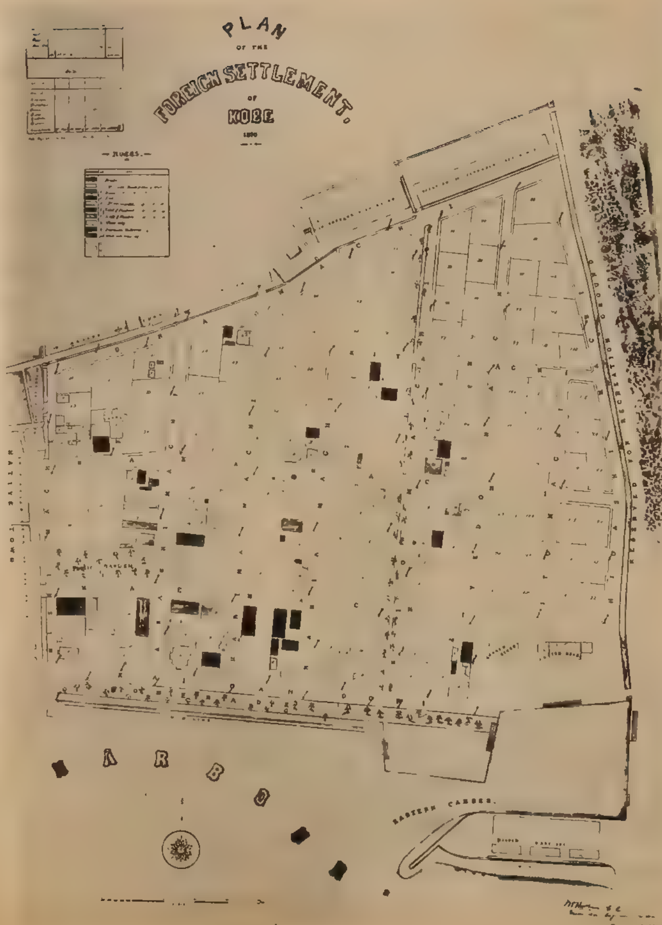
（大藏省藏）



原圖には「伊藤俊介英人ハルト立會分見繪圖」とあり、百二十六區に分つ。蓋し明治元年居留地檢地司ハートと立會決定せる地圖に、明治三年第三次競賣迄の競落人名を記入せるものならむ。町名を附せしは明治五年にあれど、當初より旣に此町名を内定せしが如く、而も爾後明治三十二年改正條約實施迄は、居留地に於ては町名を呼はずして單に區劃の番號を以てせり。

第二十二圖

明治三年神戸外國人居留地地圖

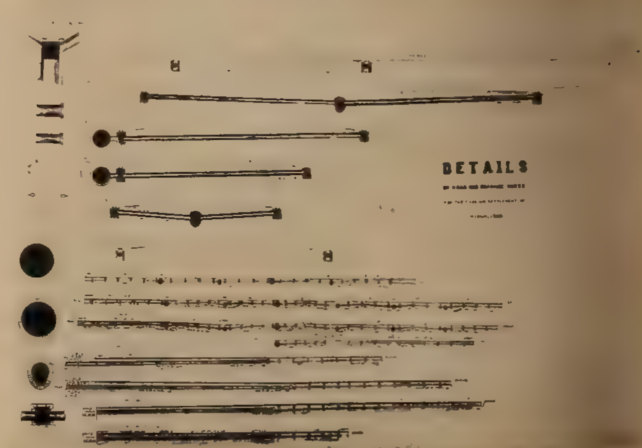


（神戸市役所藏）

原圖は後出一八七二年の居留地圖と同じく居留地檢地司たりし英國人技師ジェー・ダブリュー・ハート一八七〇年の製圖に係り明治三十二年改正條約實施の時居留地行司局より市に引繼ぎたるものなり。此圖は後出の明治五年の居留地圖と同じく複製圖に據れり。

明治元年神戸外國人居留地下水道設計圖

（神戸市役所藏）



原圖は一八六八年外人設計に係る下水道設計圖にして明治三十二年居留地行司局より神戸市に引繼げるもの。此圖は複製圖に據れり。

第二十二圖



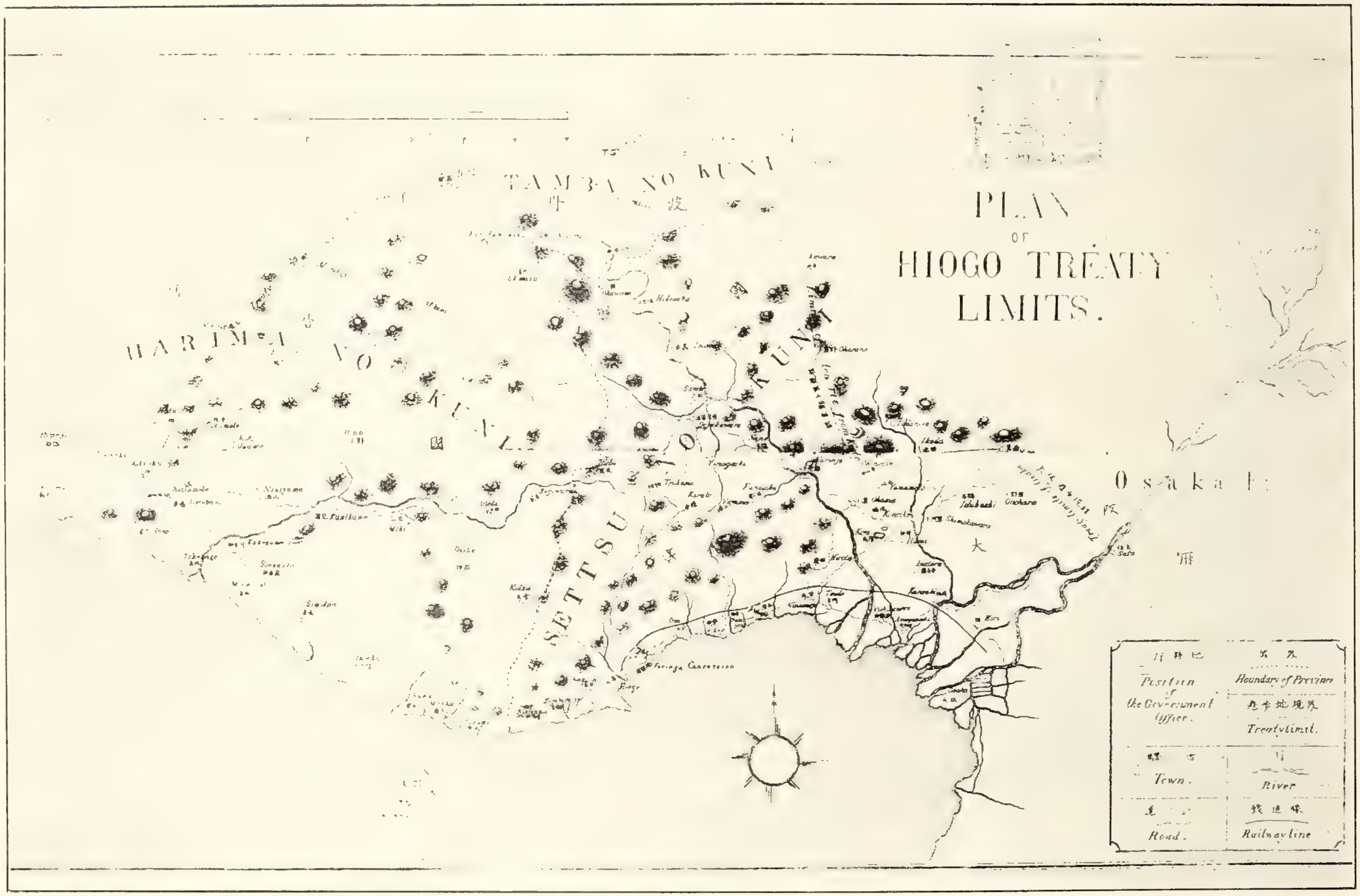
明治五年神戸外國人居留地圖

（神戸市役所藏）

原圖は前出明治三年居留地圖と同じく居留地檢地司たりし英國人技師ジエー・ダブリユー・ハート一八七二年の製圖に係る。

第二十四圖

明治十年兵庫縣外國人遊歩規程圖（兵庫縣廳藏）

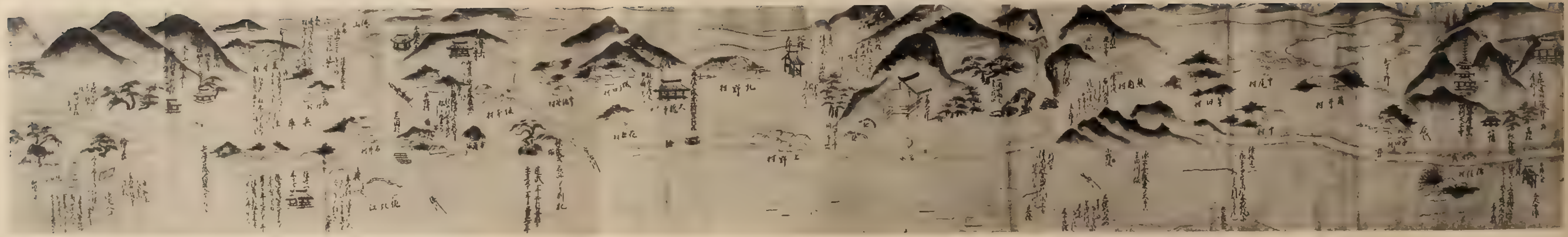


明治七年兵庫縣初めて外國人遊歩規程を定め、神戸より直徑十里以内を其遊歩地域とし地圖を製し、之を印行せしが、明治十年之を改刻す。本圖は明治十年の改刻本によれり。

第二十五圖

寛文十三年攝津名所圖（其一）

（宮内省圖書寮藏）



（其二）

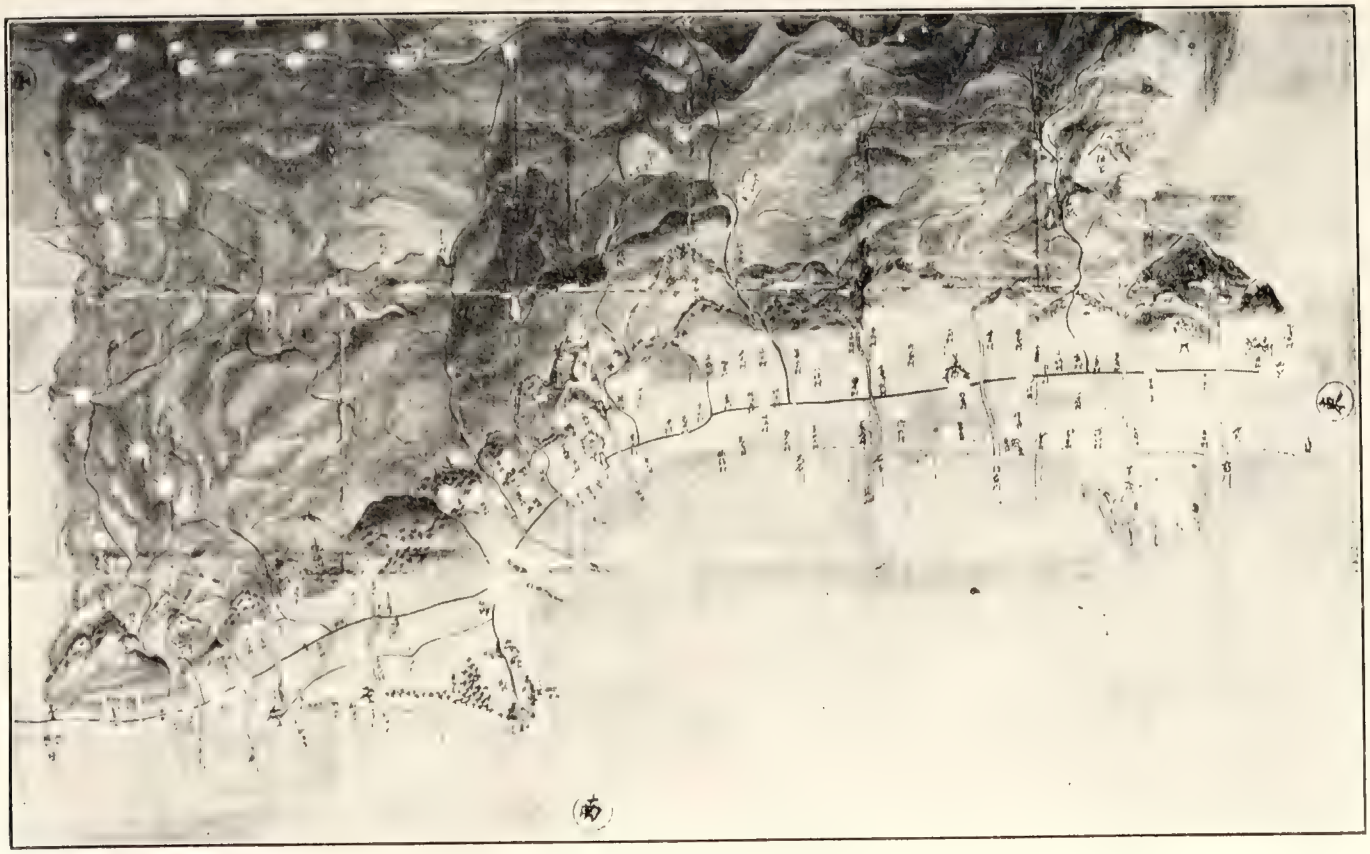


原圖無題名なれど別本に攝津古覽と題するものあり。此圖は第一圖に脇濱村以西和田岬迄、第二圖には和田岬より以西攝播國境迄を收む。

第二十六圖

西宮以西村々名所繪圖

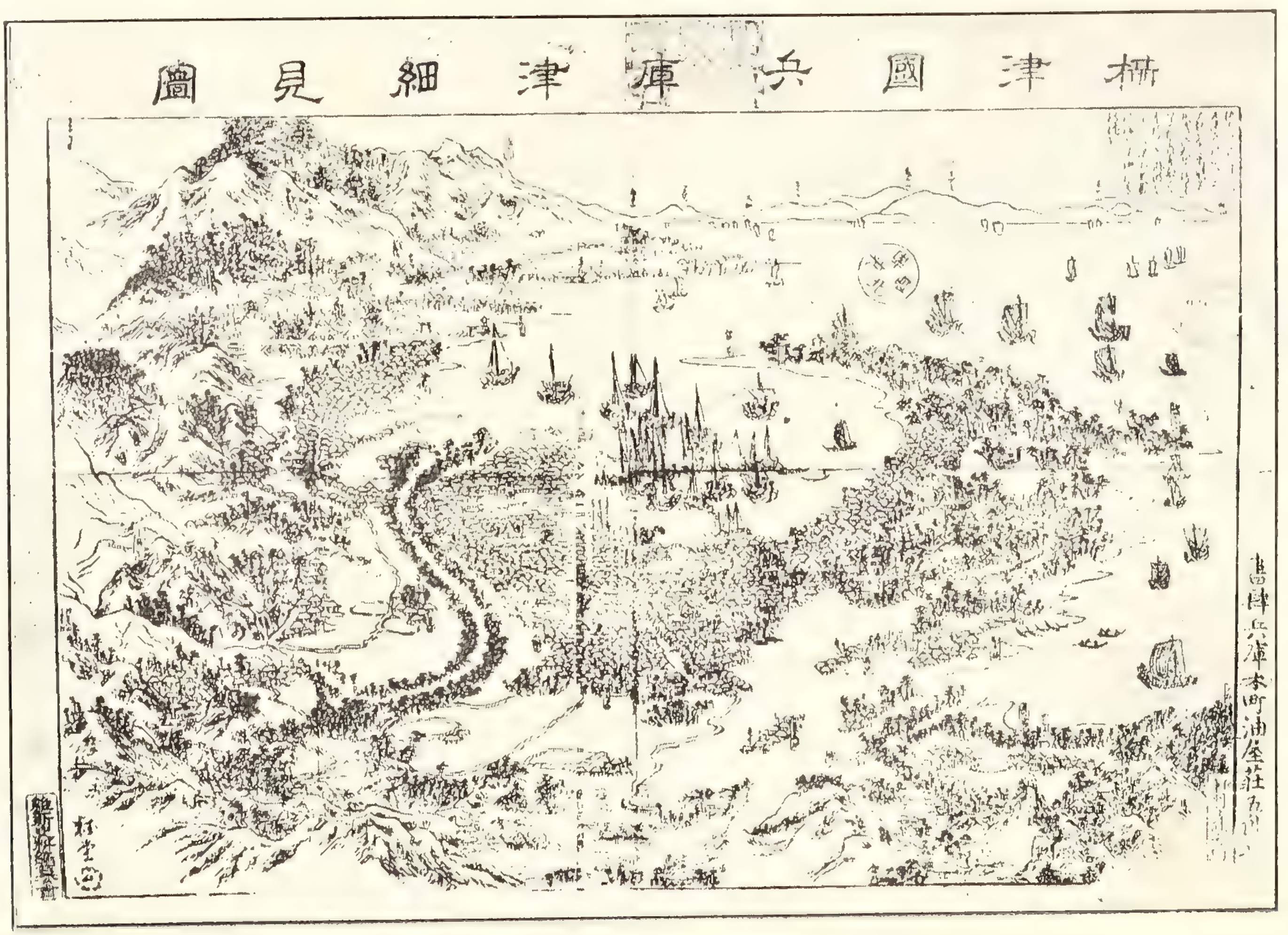
神戸市役所藏



原本には「享保十二年極月西宮より攝州播州境川迄繪圖」とあり。

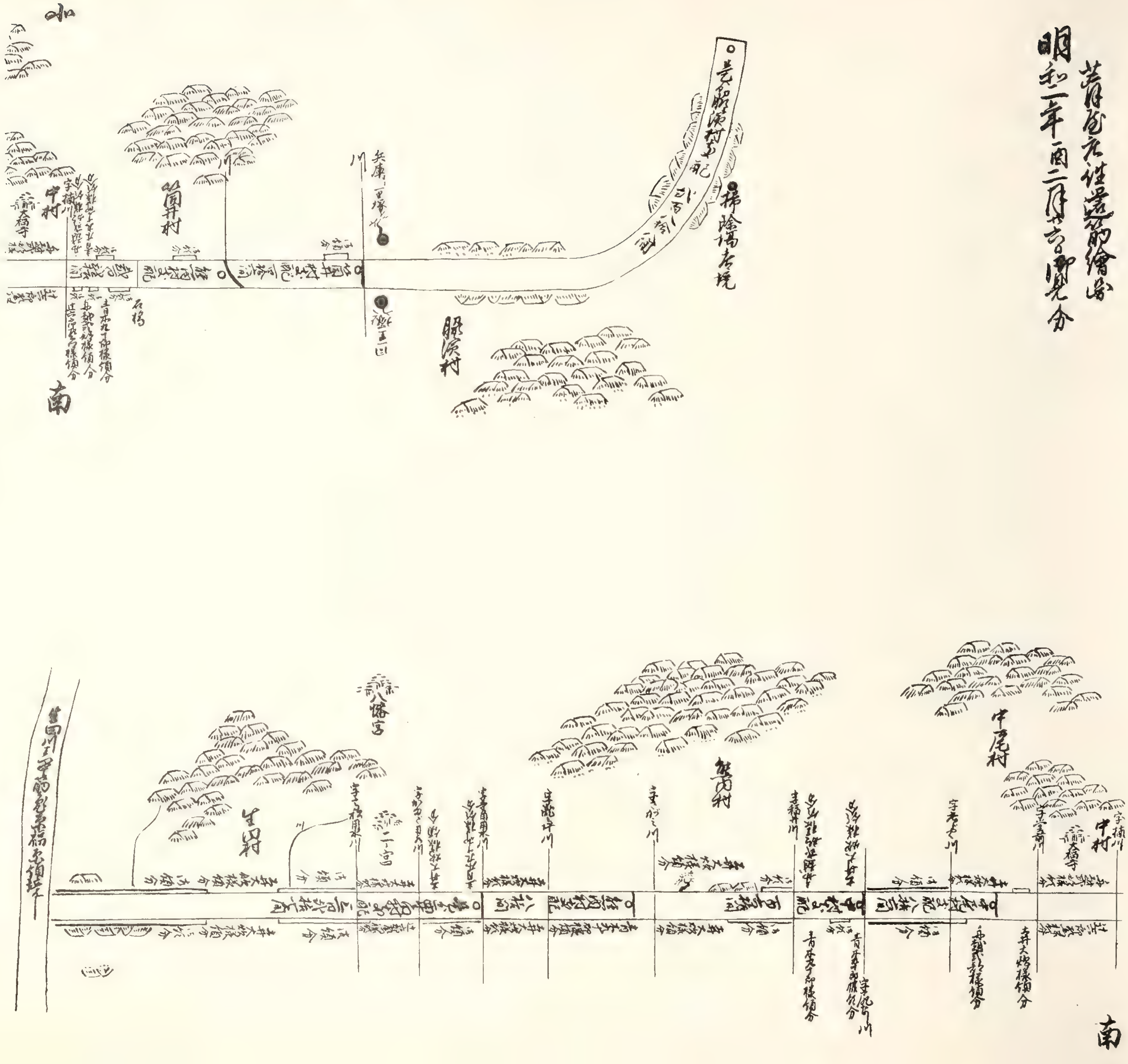
兵庫津細見

維新史料編纂會藏



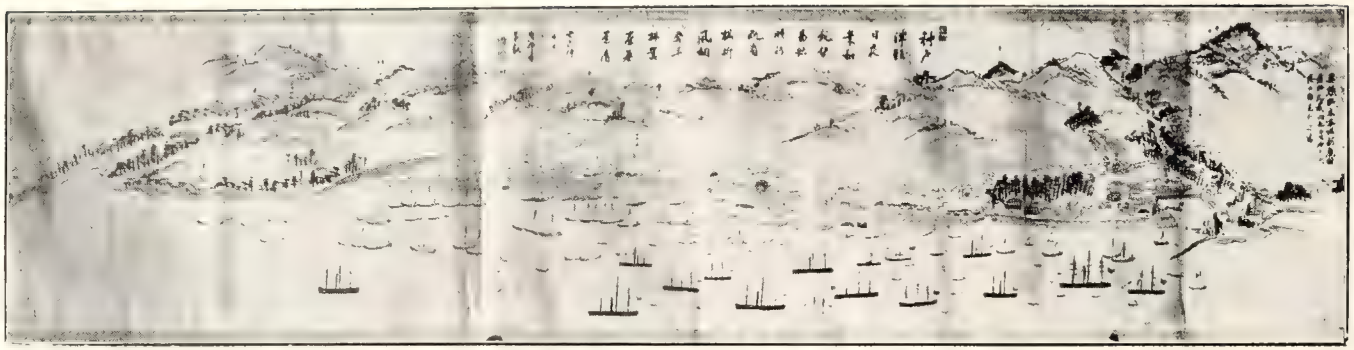
兵庫の書肆油屋莊五郎板行にして德川末期の出版にかゝる。

第二十七圖



本圖は一連の寫本なれど便宜上二段に分つ。葺屋庄往還とあるは今の神戸市葺合區內を通過せし舊西國街道にして其掃除は沿道諸村の負擔に係る。此圖は明和二年二月二十六日見分を受けたる村々受持區域を示せるものにて神戸市生田町三丁目增田恒太郎氏藏本に據る。

第二十八圖



神戸開港見取圖（神戸市 菅音次郎氏藏）

神戸開港に當り横濱の人某此地に來りて寫生したるものといふ。



開港當初の神戸（京都帝國大學圖書館藏）

此圖の註によれば兵庫居留地の景とあり。英國旗の樹てる箇所は其當時英國領事館所在地たりし舊海軍操練所の前なる舟入堀の突端なるべく、以て土木の未だ竣らざりし慶應三年の居留地附近の狀を見るべし。原圖は開港當時碇泊せし英國艦隊乘組士官エフ・ジェー・パーマーの畫ける所、一八六八年三月（明治元年）刊、イラストレーテッド・ロンドン・ニュースに收む。

第二十九圖

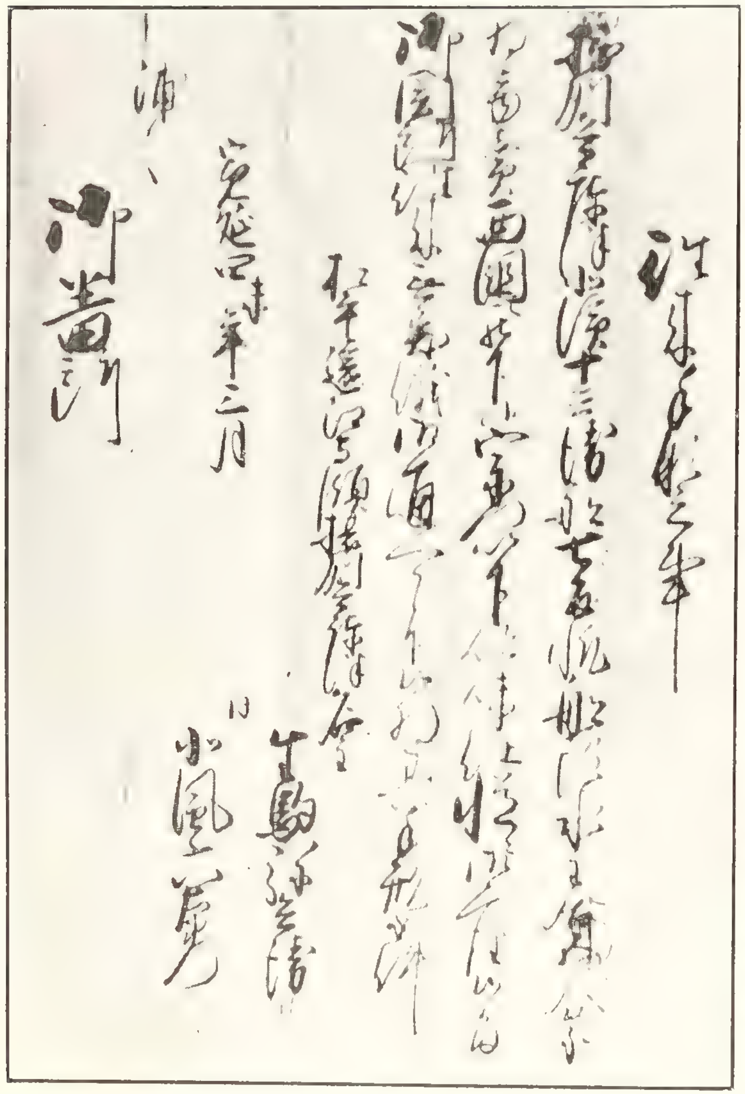
兵庫渡海船



（和漢船用集卷四所收）

和漢船用集は造船家金澤兼光の著す所にして寶暦十一年中夏の自序あり當時の兵庫渡海船の形狀を見るべし

船の往來手形



（兵庫縣明石郡　桃木武平氏藏）

第三十圖



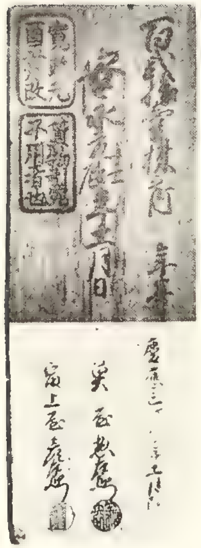
仕切帳（兵庫縣御影町鷹見保信氏藏）

安政六年兵庫綸屋（鷹見右近右衛門）使用のもの。



兵庫諸問屋株札（表）（神戸市　北風七兵衛氏藏）

安永元年十一月諸問屋仲間成立の際交附せるもの。



兵庫諸問屋株札（裏）



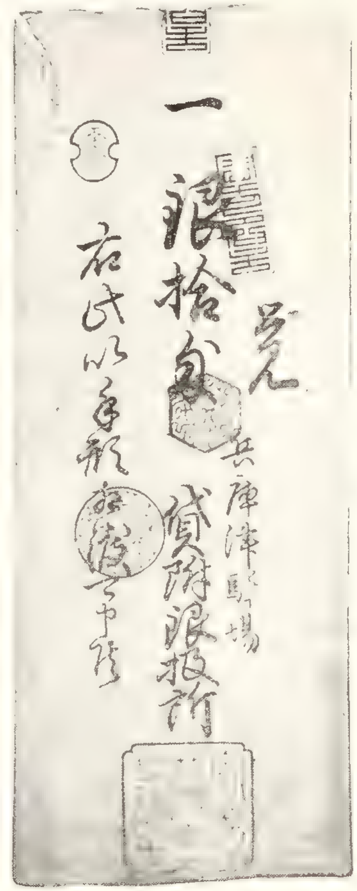
仕切狀（福井縣小濱町　古河成一氏藏）

北風荘右衛門より若狹小濱の古川家に宛てしもの。

第三十一圖

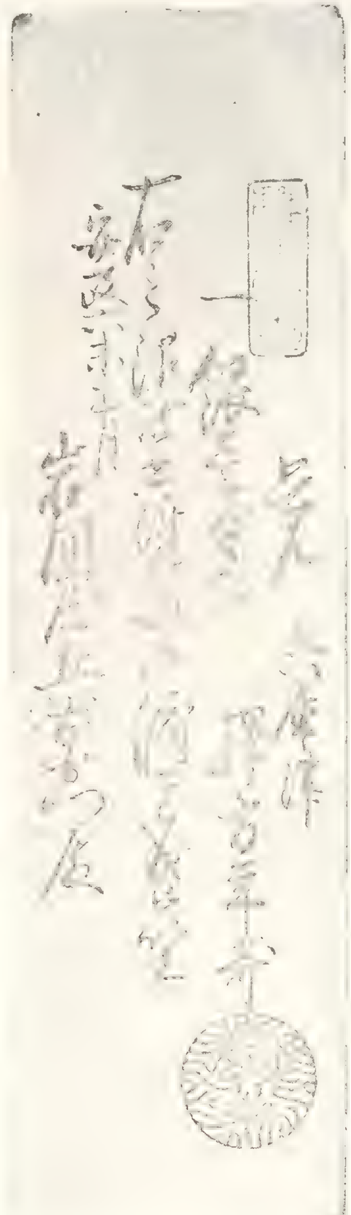
兵庫津驛場銀札

十匁札



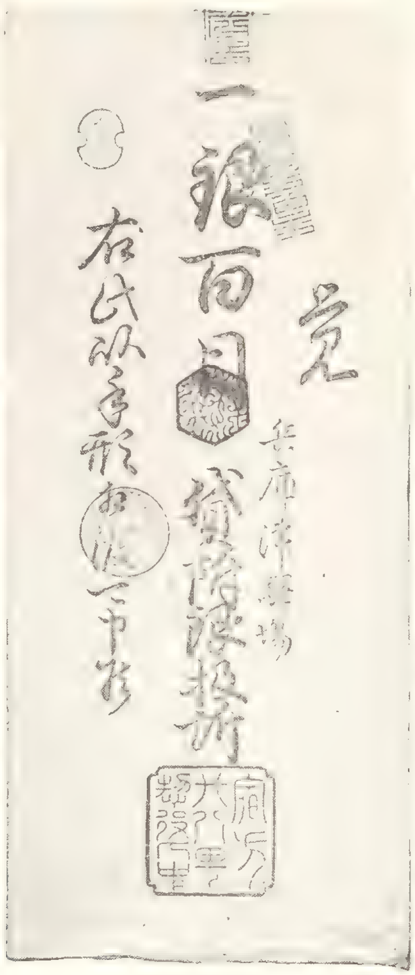
（堺市前田惇氏藏）

一匁札



（神戸市神田兵右衛門氏藏）

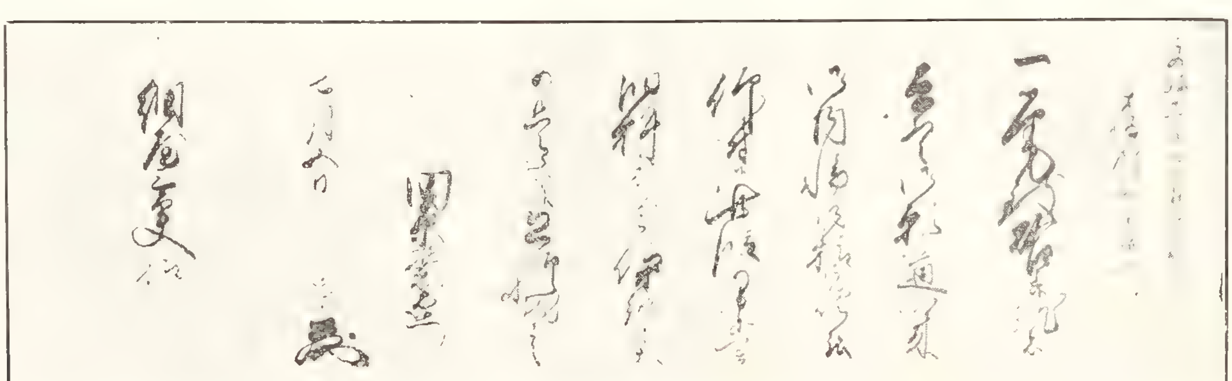
百匁札



（堺市前田惇氏藏）

兵庫宿驛にて銀札を發行せる最初の年次は詳ならねど、文化年中には旣に通用せしが如し。安政以降は岩間屋（神田氏）兵右衛門銀札及錢札の兌換に當れりといふ。

臼杵藩より網屋三太夫宛書狀

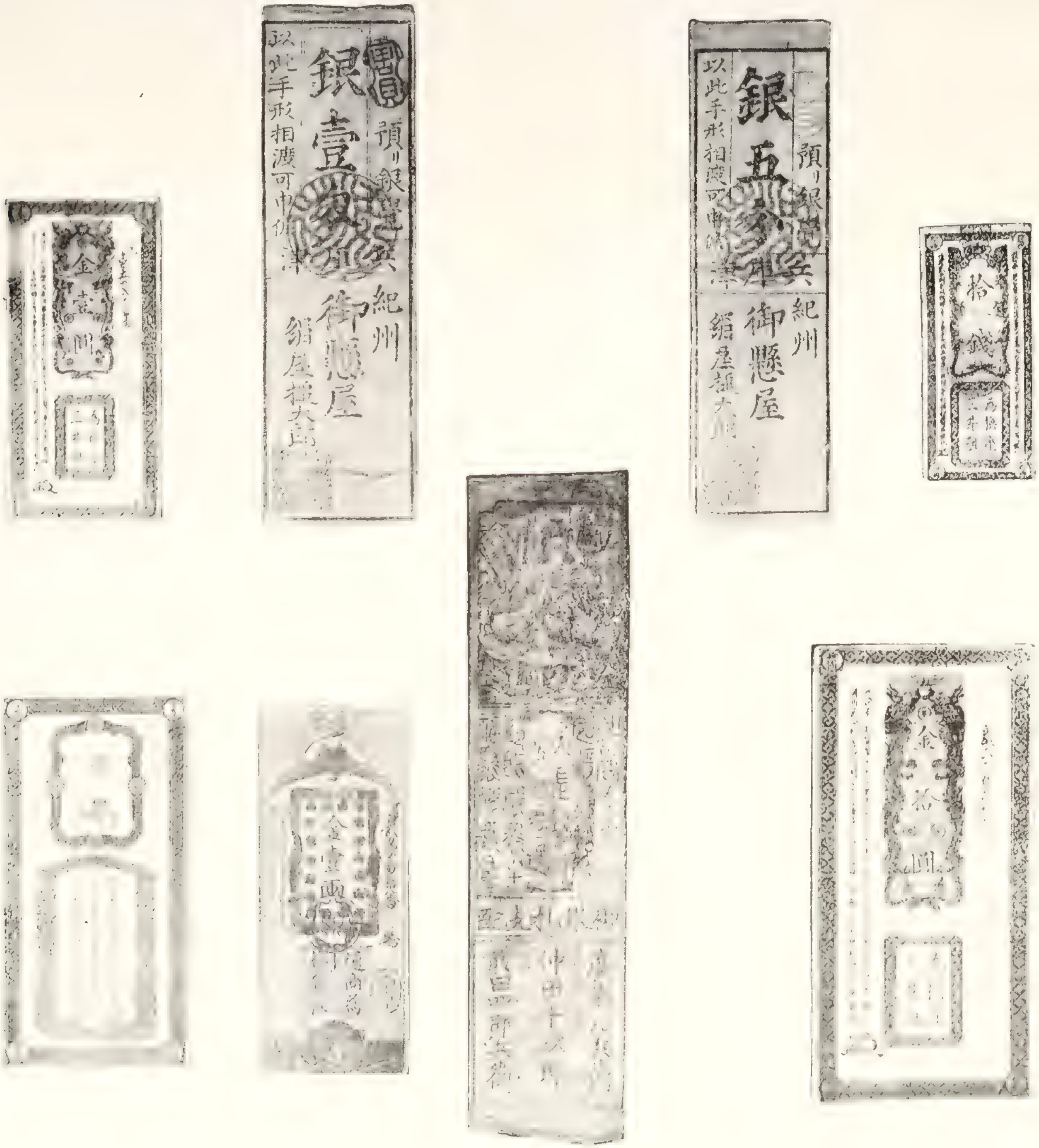


（神戸市増田三太夫氏藏）

網屋は兵庫濱本陣の一にして代々臼杵藩本陣たり。本書狀は兩者の關係を知るべきもの。

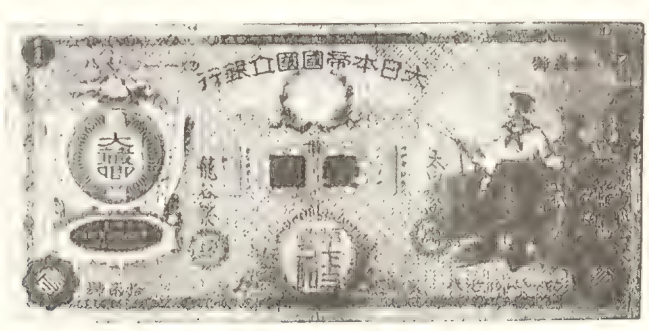
第三十二圖

兵庫港關係諸札



（堺市前田惇氏藏）

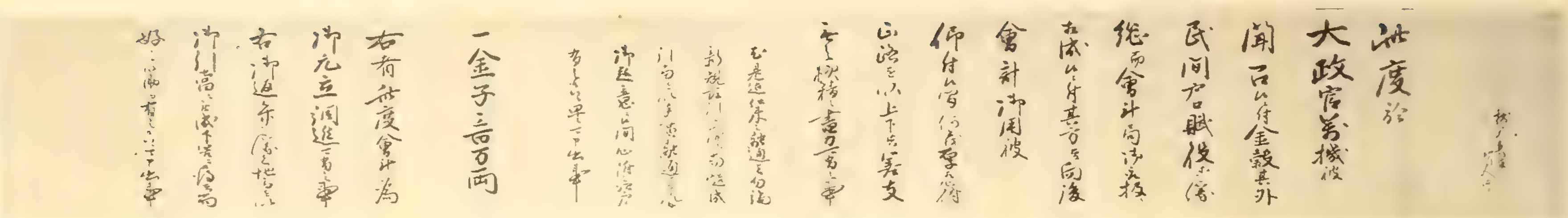
此等諸札は幕末より明治初年に神戸に於て通用せしもの、此中下段の一圓紙幣は神戸市兵庫戸場町に設立せられたる第七十三國立銀行の發行に係る。



第三十三圖

太政官命令書

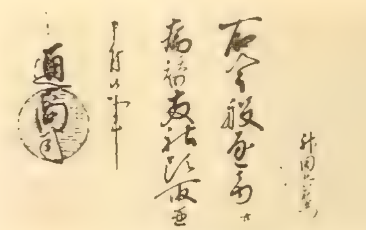
（神戸市　神田兵右衛門氏藏）



明治初年太政官より兵庫津町人等に會計御用を命ずると同時に會計元立金として金子三百萬兩の調進を課せるもの。

通商司辭令

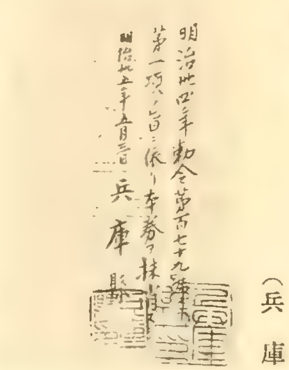
（神戸市　神田兵右衛門氏藏）



神田兵右衛門に對し通商爲替兩社頭取並を命じたるものなり。

居留地々劵状

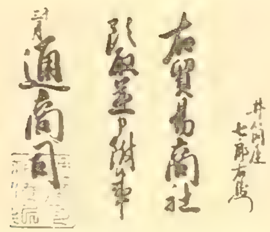
（兵庫縣廳藏）



原地劵状は知事伊藤俊介の署名せるもの。

貿易商社辭令

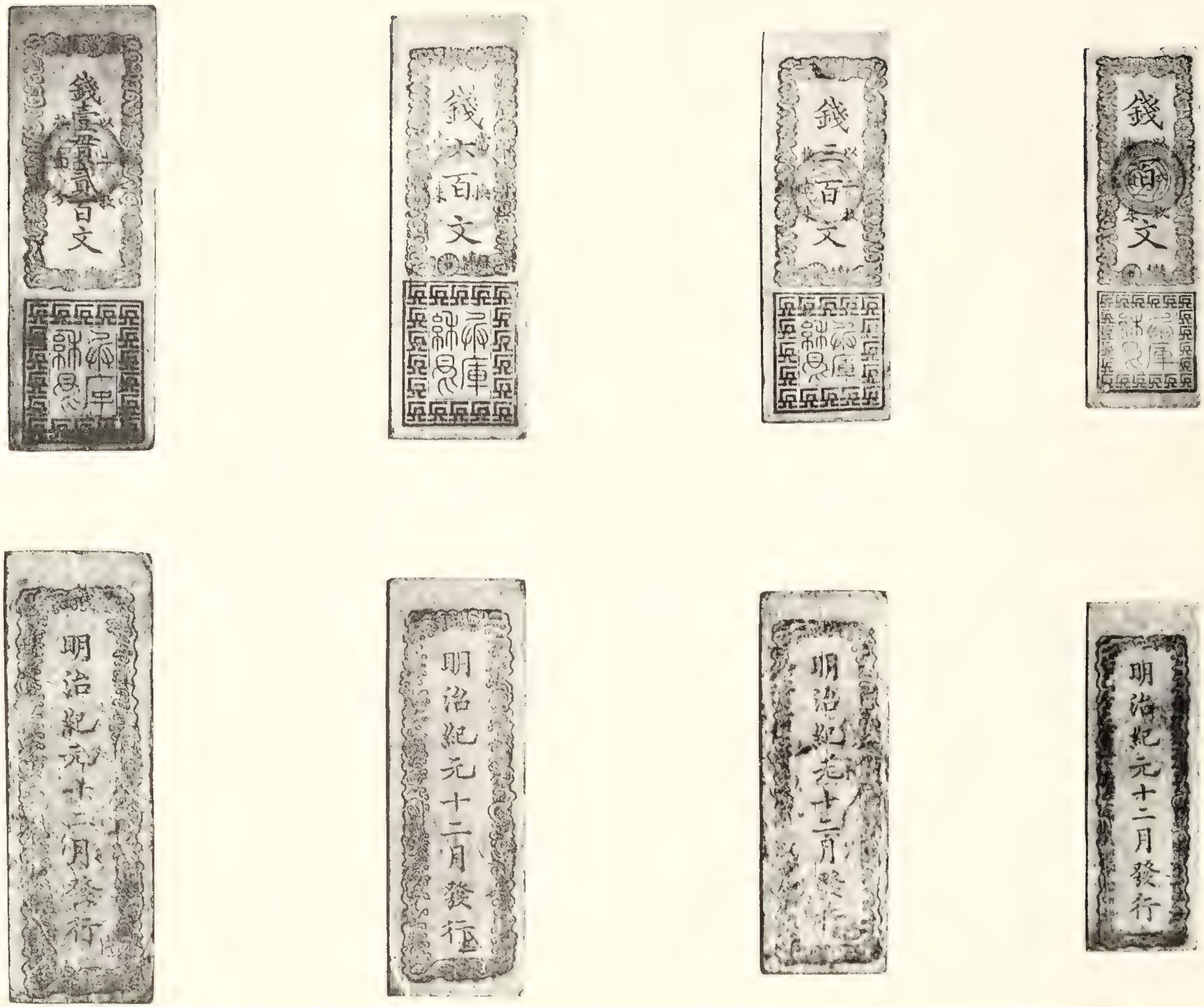
（神戸市　川越七郎右衛門氏藏）



井筒屋姓を川越と稱す。通商司より貿易商社頭取並を命ぜられたるもの。

第三十四圖

兵庫縣札



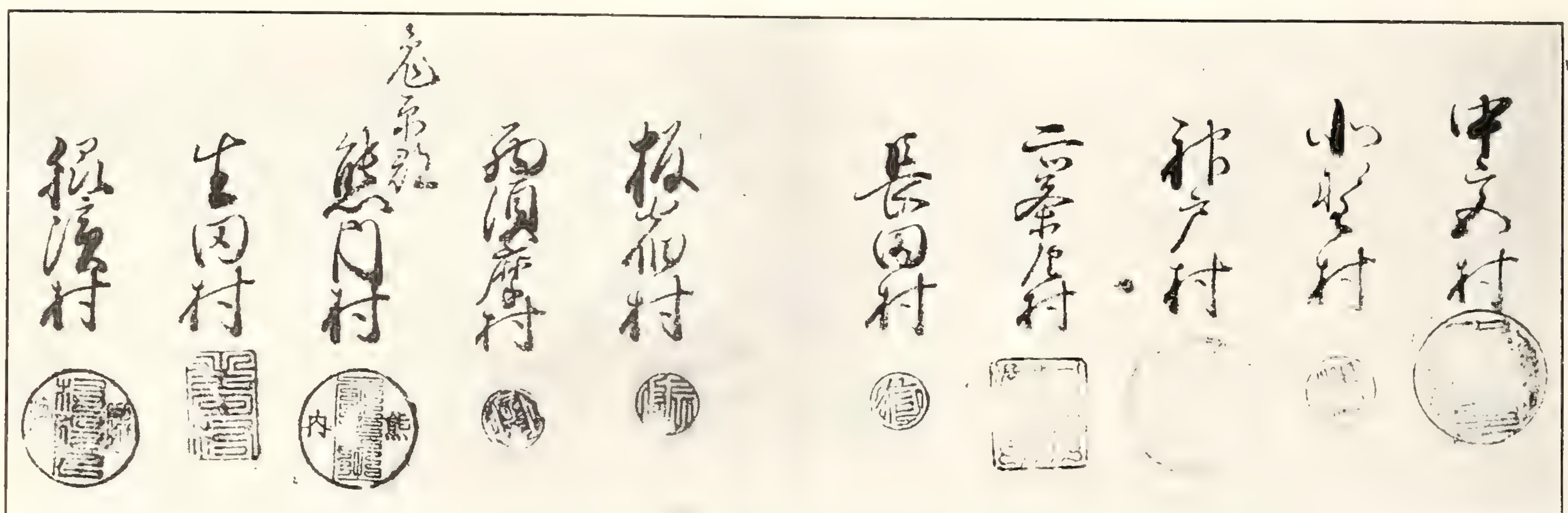
（姫路市 井上又藏氏藏）

明治元年小額貨幣の流通乏しく市民不便を感ずるや、兵庫縣は神田兵右衞門等の建議を容れ、同年十二月百文、三百文、六百文及び一貫二百文の四種の錢札金額凡そ五萬兩を發行す。 此寫眞は右四種の表裏を示す。

第三十五圖

舊神戸村及近隣諸村印鑑



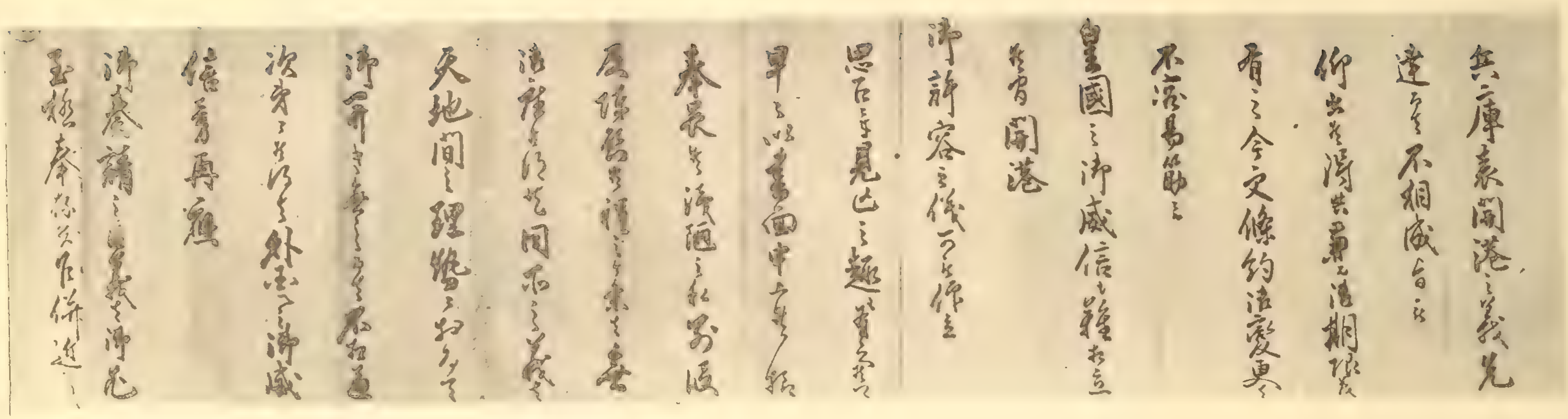


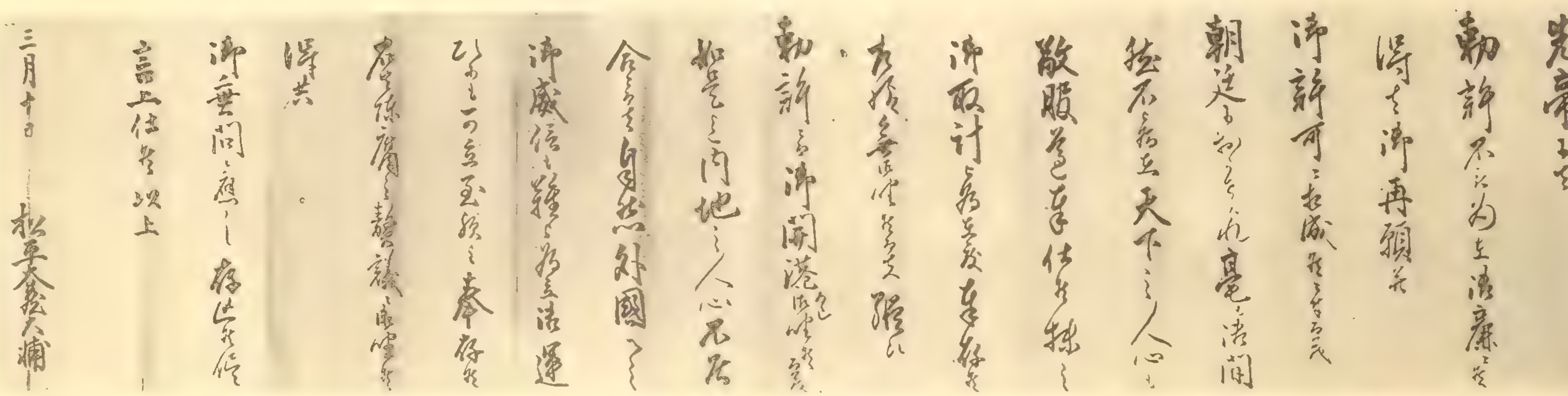
（神戸市役所藏）

舊奥平野村所藏文書にして安政六年三月水車取締印形帳と題するものに收む。

第三十六圖

松平春嶽書翰





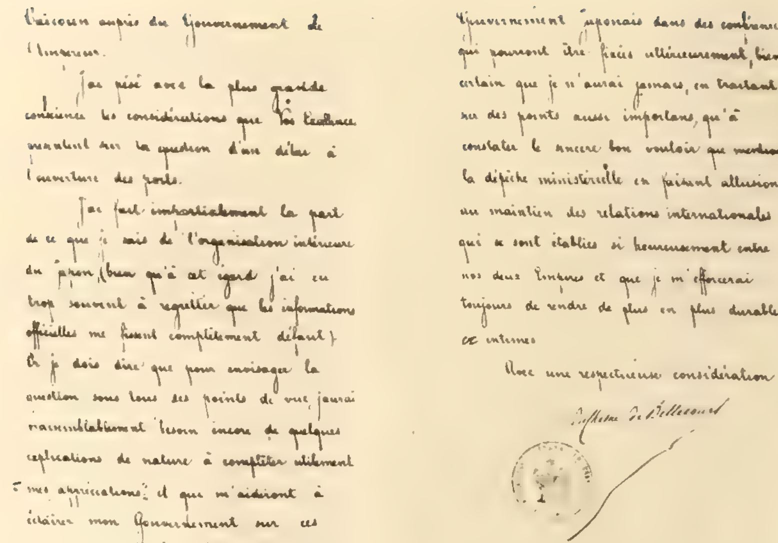
（東京市　子爵　松平慶民氏藏）

慶應三年兵庫開港勅許奏請の可否に關し將軍德川慶喜の諮問に對へたるものなり。

第三十七圖

佛國公使ベルクール書翰

（東京帝國大學文學部史料編纂掛藏）



l'ésicoun auprès du Gouvernement de l'Empereur.

J'ai pesé avec la plus grande conscience les considérations que Vos Excellences présentent sur la question d'un délai à l'ouverture des ports.

Je fais impartialement la part de ce que je sais de l'organisation intérieure du Japon (bien qu'à cet égard j'ai eu trop souvent à regretter que les informations officielles me fissent complètement défaut). Or je dois dire que pour envisager la question sous tous ses points de vue j'aurai vraisemblablement besoin encore de quelques explications de nature à compléter utilement mes appréciations, et qui m'aideront à éclairer mon Gouvernement sur ces importantes matières. J'aurai l'honneur de demander ces explications au noble

Gouvernement japonais dans des conférences qui pourront être fixées ultérieurement, bien certain que je n'aurai jamais, en traitant sur des points aussi importans, qu'à constater le sincère bon vouloir que mentionne la dépêche ministérielle en faisant allusion au maintien des relations internationales qui se sont établies si heureusement entre nos deux Empires et que je m'efforcerai toujours de rendre de plus en plus durables et intimes.

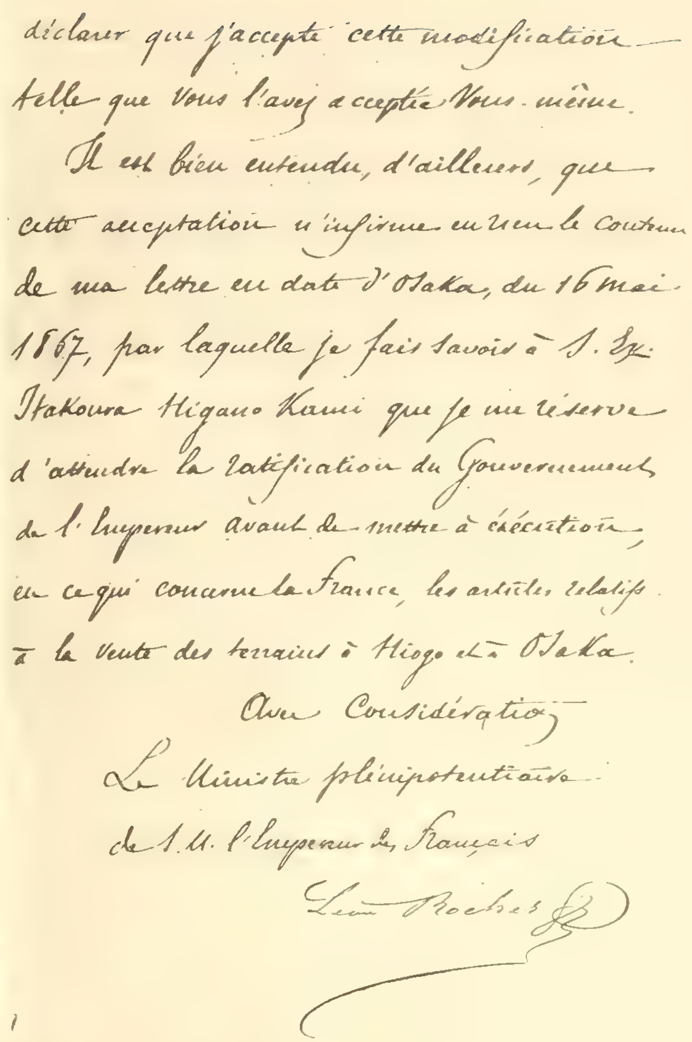
Avec une respectueuse considération

Duchesne de Bellecourt

兩都兩港開期延引に關し一八六一年（文久元年）五月二十日佛國公使より幕府老中に宛てたる書翰にして、「大坂江戸新潟兵庫開港延期談判一件」に收む。

佛國公使ロッシュ書翰

（東京帝國大學文學部史料編纂掛藏）



déclarer que j'accepte cette modification telle que Vous l'avez acceptée Vous-même.

Il est bien entendu, d'ailleurs, que cette acceptation n'infirme en rien le contenu de ma lettre en date d'Osaka, du 16 mai 1867, par laquelle je fais savoir à S. Ex. Itakoura Higano Kami que je me réserve d'attendre la ratification du Gouvernement de l'Empereur avant de mettre à exécution, en ce qui concerne la France, les articles relatifs à la vente des terrains à Hiogo et à Osaka.

Avec Considération

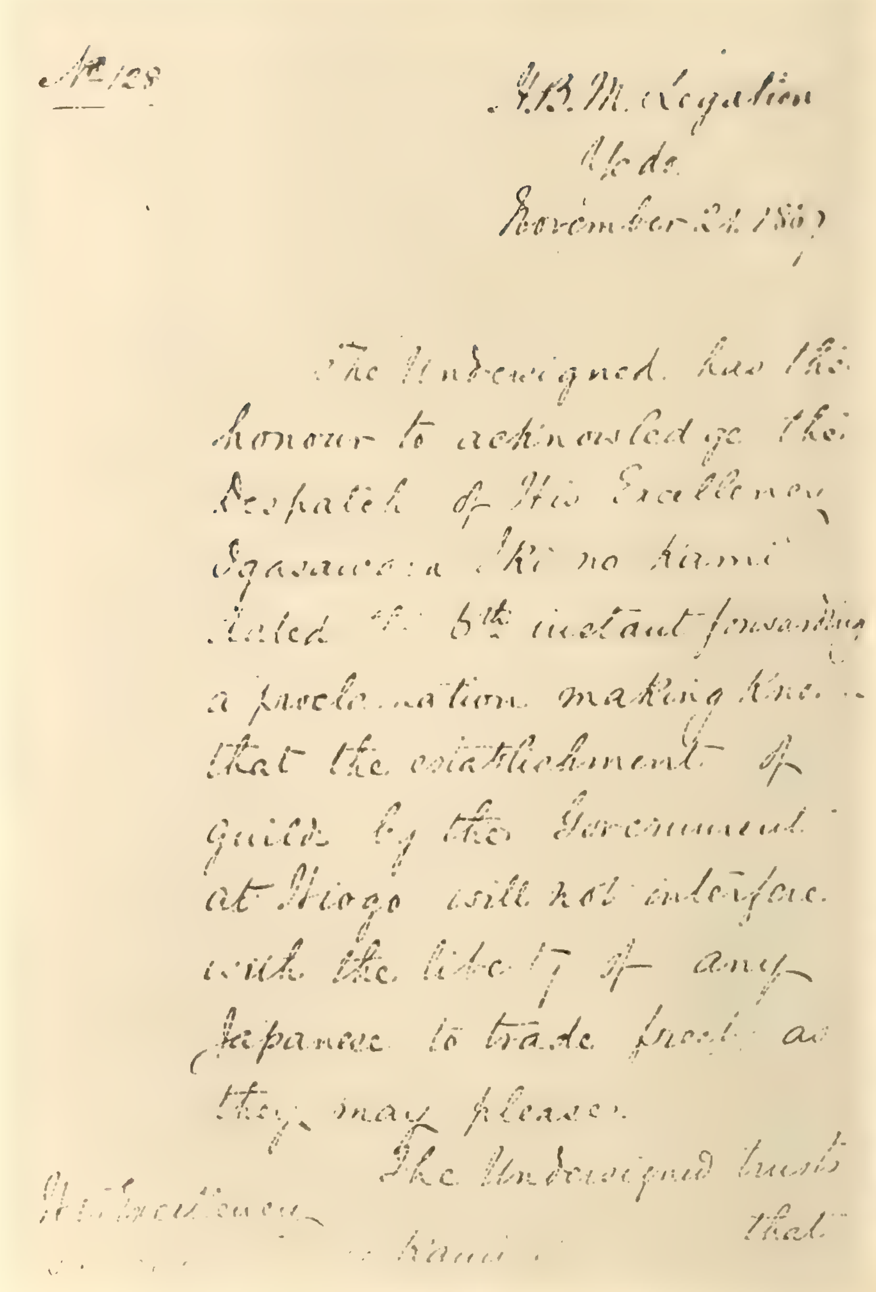
Le Ministre plénipotentiaire de S. M. l'Empereur des Français

Léon Roches

一八六七年（慶應三年）九月十八日佛國公使より幕府老中に宛てたる書翰にして「兵庫及大坂外國人居留地規則取極一件」に收む。

第三十八圖

兵庫商社設置に關する英國公使照會文



No. 128

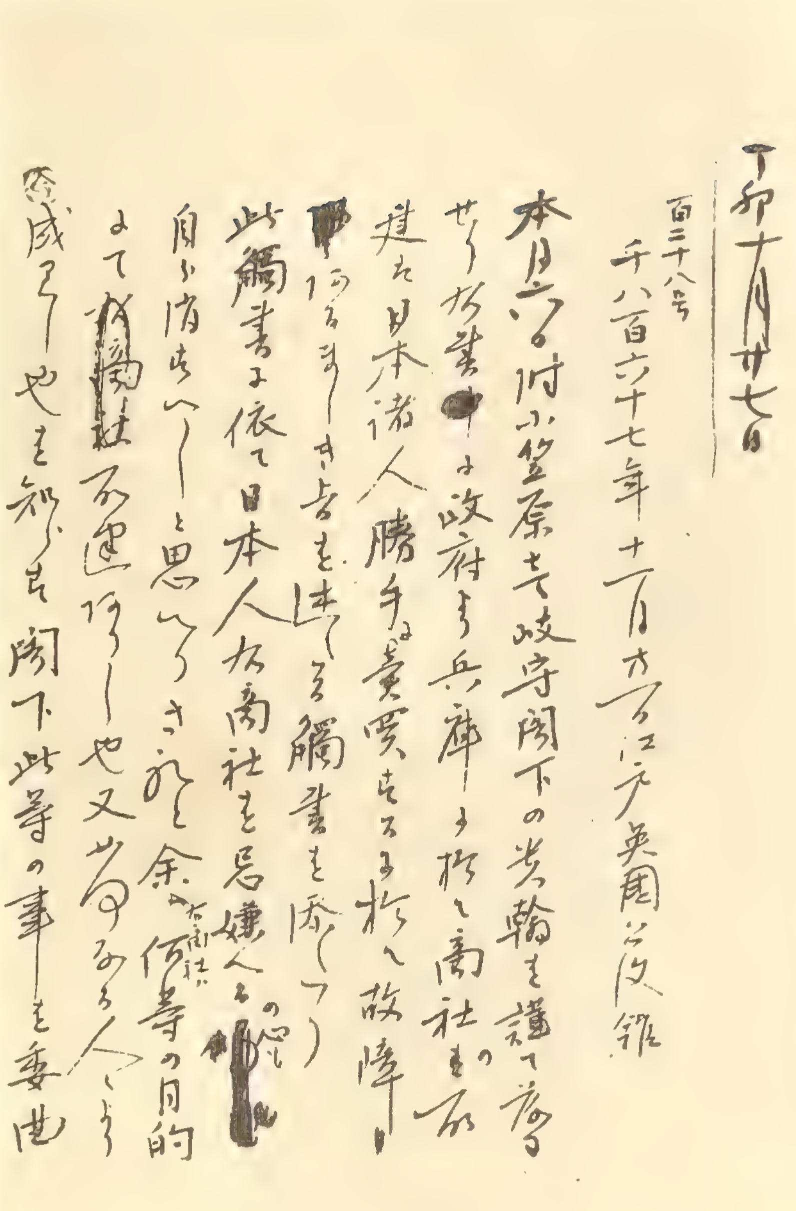
H.B.M. Legation
Yedo.
November 21st 1867

The Undersigned has the honour to acknowledge the Despatch of His Excellency Ogasawara Iki no Kami dated the 6th instant forwarding a proclamation making known that the establishment of guilds by the Government at Hiogo will not interfere with the liberty of any Japanese to trade freely as they may please.

The Undersigned trusts that

His Excellency
Kami.

（東京帝國大學文學部史料編纂掛藏）



丁卯十月廿七日

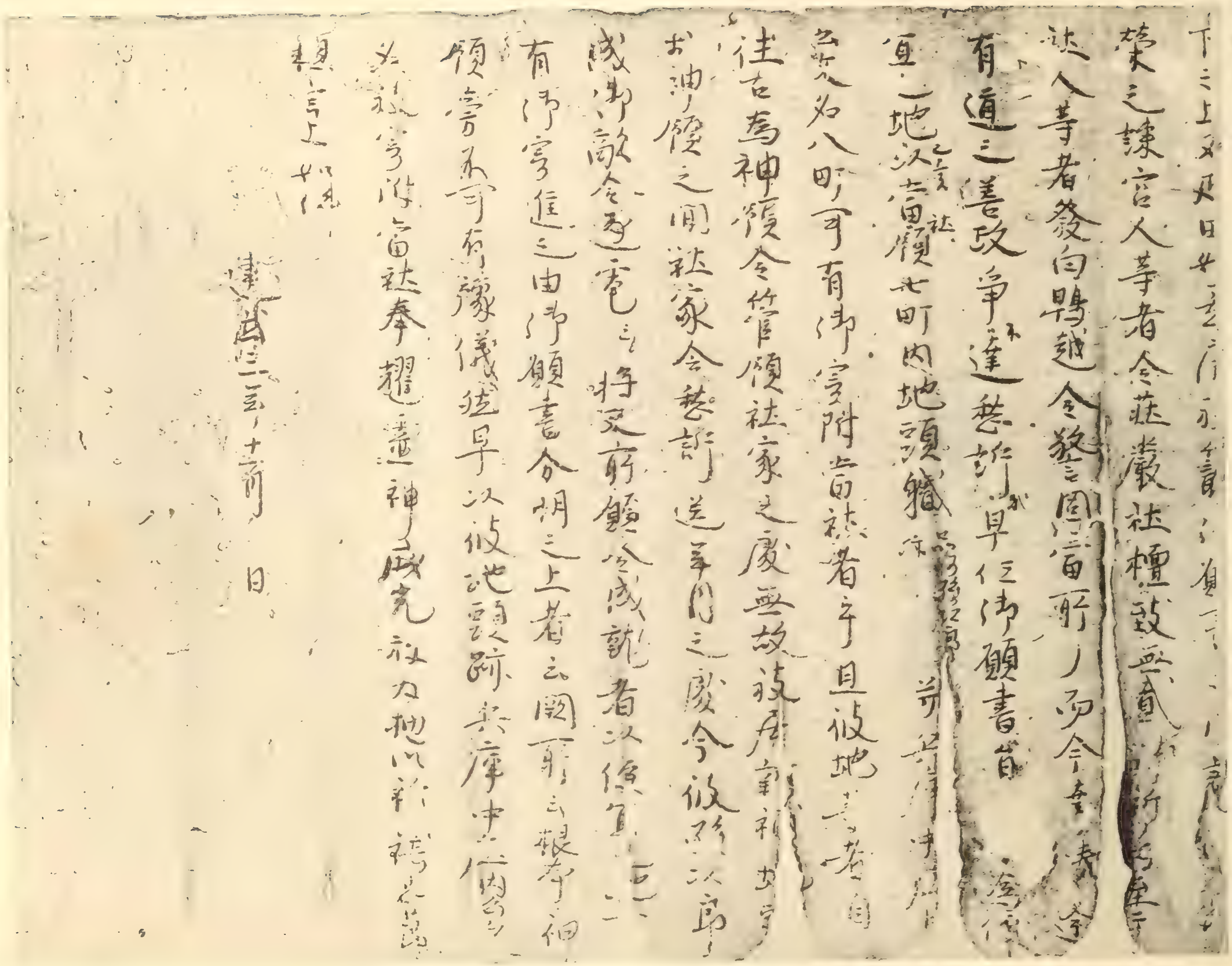
百二十八号

千八百六十七年十一月廿一日江戸英国公使館

一八六七年（慶應三年）十一月二十一日のもの。「兵庫に於て商社設置の理由英國公使パークス氏より問合一件」と題する書類に收む。

第三十九圖

長田神社文書

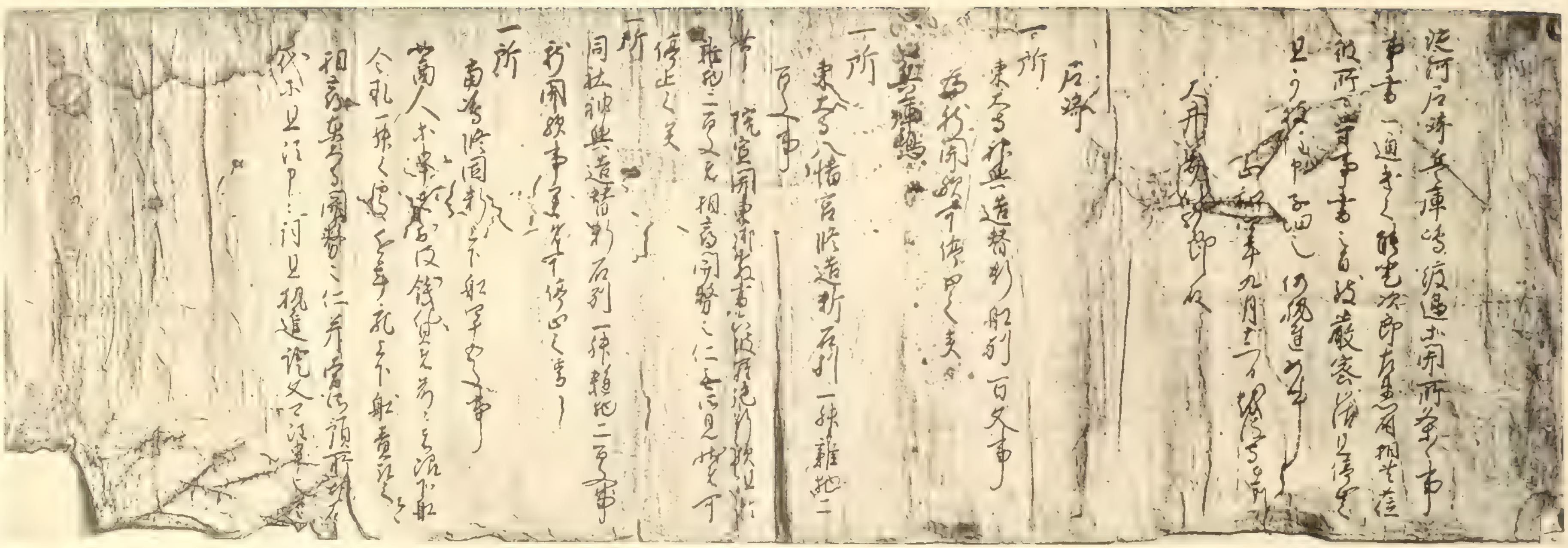


建武三年十一月公文名社領地寄附言上書殘片

（神戸市 官幣中社 長田神社藏）

第四十圖

東大寺文書

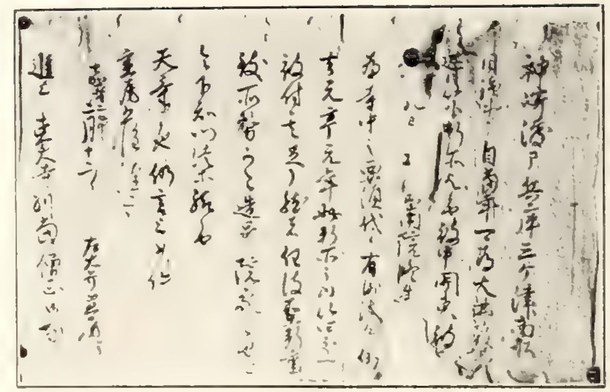


（奈良市 東大寺藏）

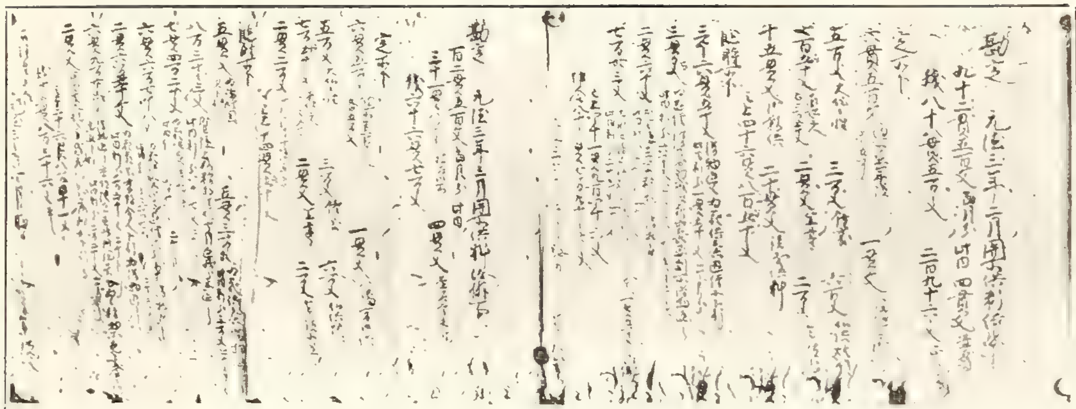
正和四年九月十二日守邦親王御教書並事書案

第四十一圖

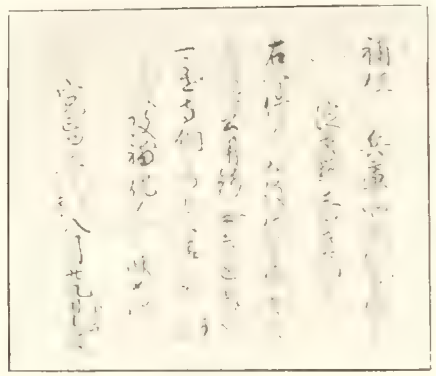
東大寺文書



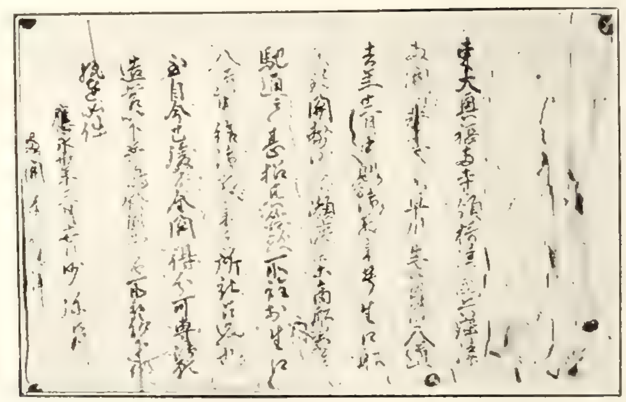
嘉暦二年二月十二日後醍醐天皇綸旨



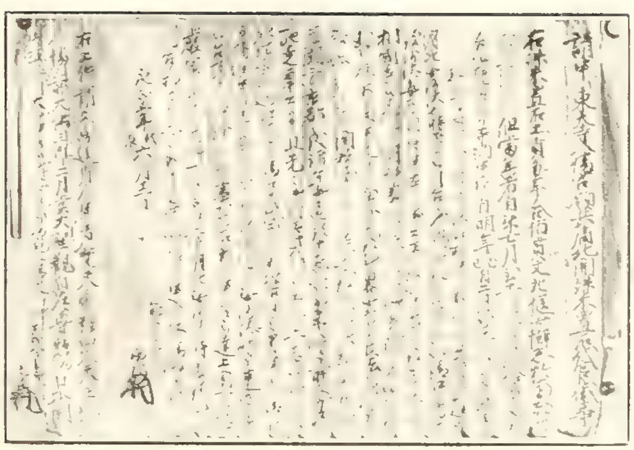
元徳三年二月及三月兵庫北關所供料結解狀



寛正四年八月二十九日兵庫北關代官補任狀案



應永三十年三月十七日足利將軍御教書案



永正五年六月十二日山村五郎左衛門尉助次請文

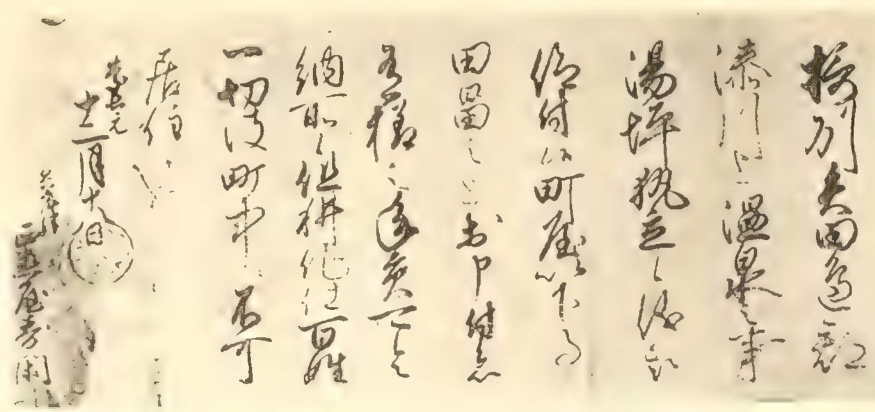
（奈良市　東大寺藏）

第二十四圖

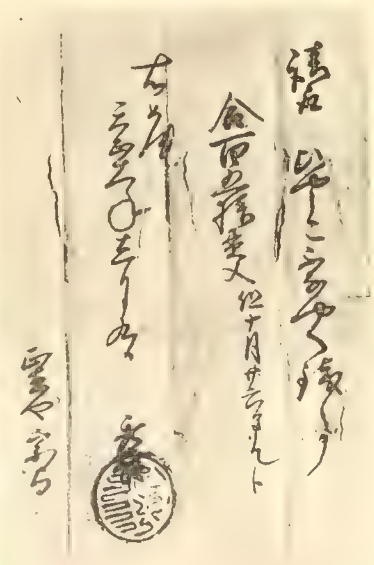
極井文書貳通

（神戸市　極井らく氏藏）

（一）



（二）

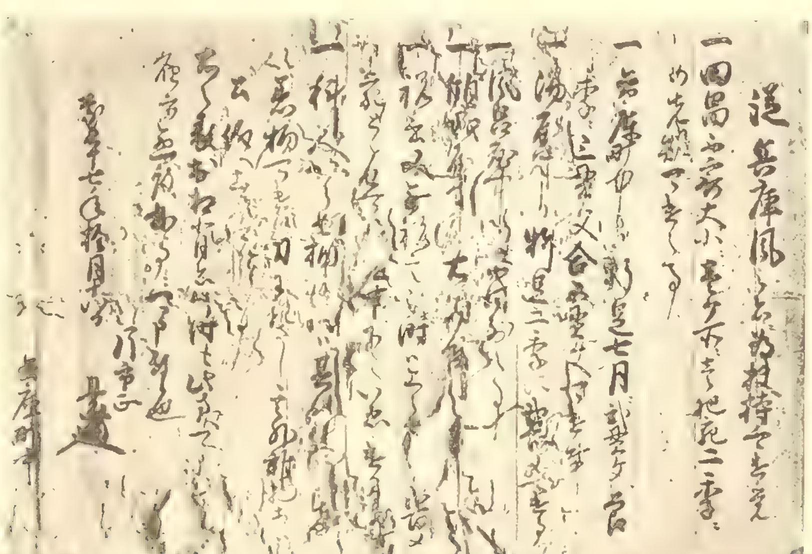


（一）慶長元年十二月十八日湊川上溫泉の湯坪執立に關し豐臣秀吉より正直屋壽閑に與へし朱印狀なり。

（二）天正十一年十二月九日豐臣秀吉の正直屋宗與に與へし兵庫船役錢請取狀にして正直屋は當時船役錢を管理せり。

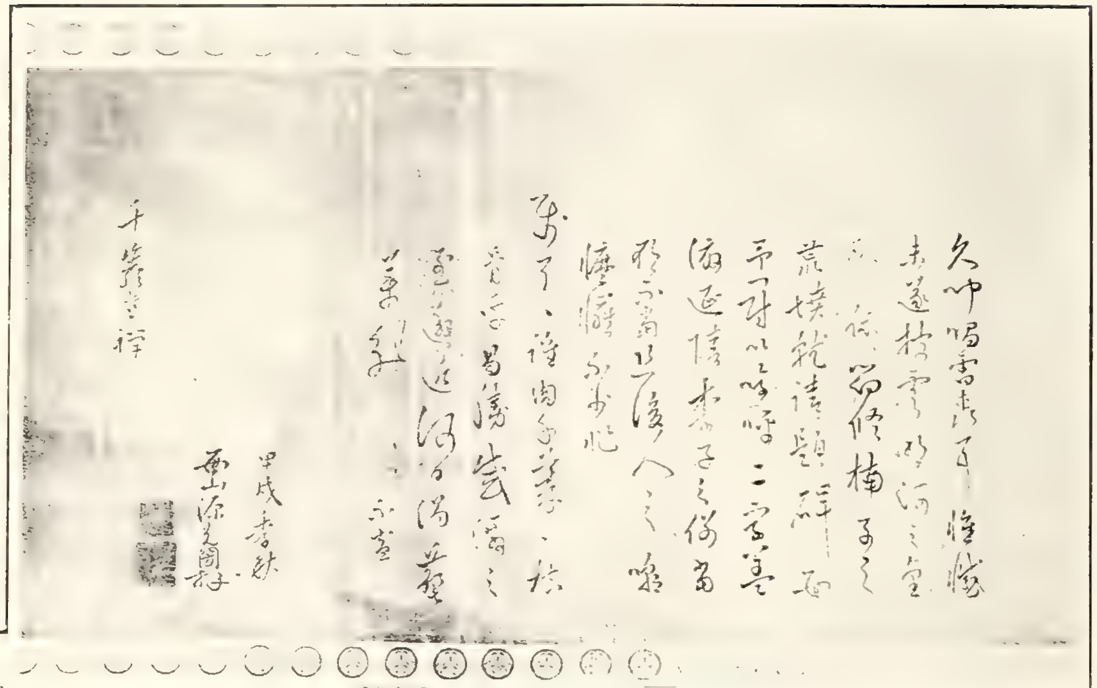
凧文書

（神戸市　啓明親館藏）



慶長十七年十月十八日片桐且元より凧村（今神戸市御崎村に當る）村民に特權を附與せる文書なり。

第四十三圖



水戸光圀書翰（神戸市廣嚴寺藏）

楠公建碑の翌々年卽ち元祿七年秋廣嚴寺千巖に與へたる書翰を表裝せるもの。



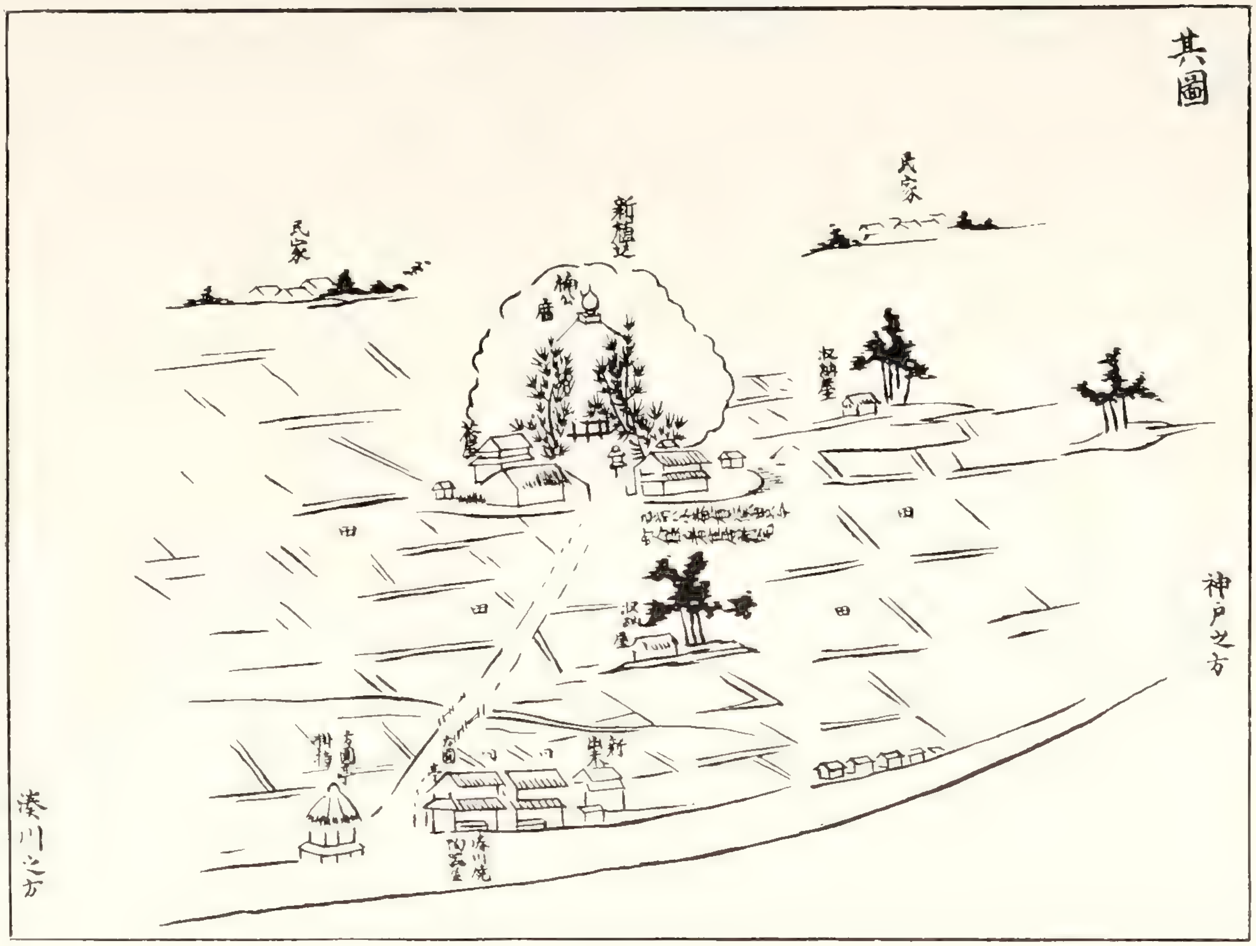
先君義公嘗寄書攝津廣
嚴寺住持千巖從楠子碑
西之事歲月既久痕漬稍
壞頃就余請禊之乃命工
重加裝褙以還出云
豹死留皮豈偶然濤河
遠水連天人生有限名無
竭楠子精忠萬古傳
齊昭

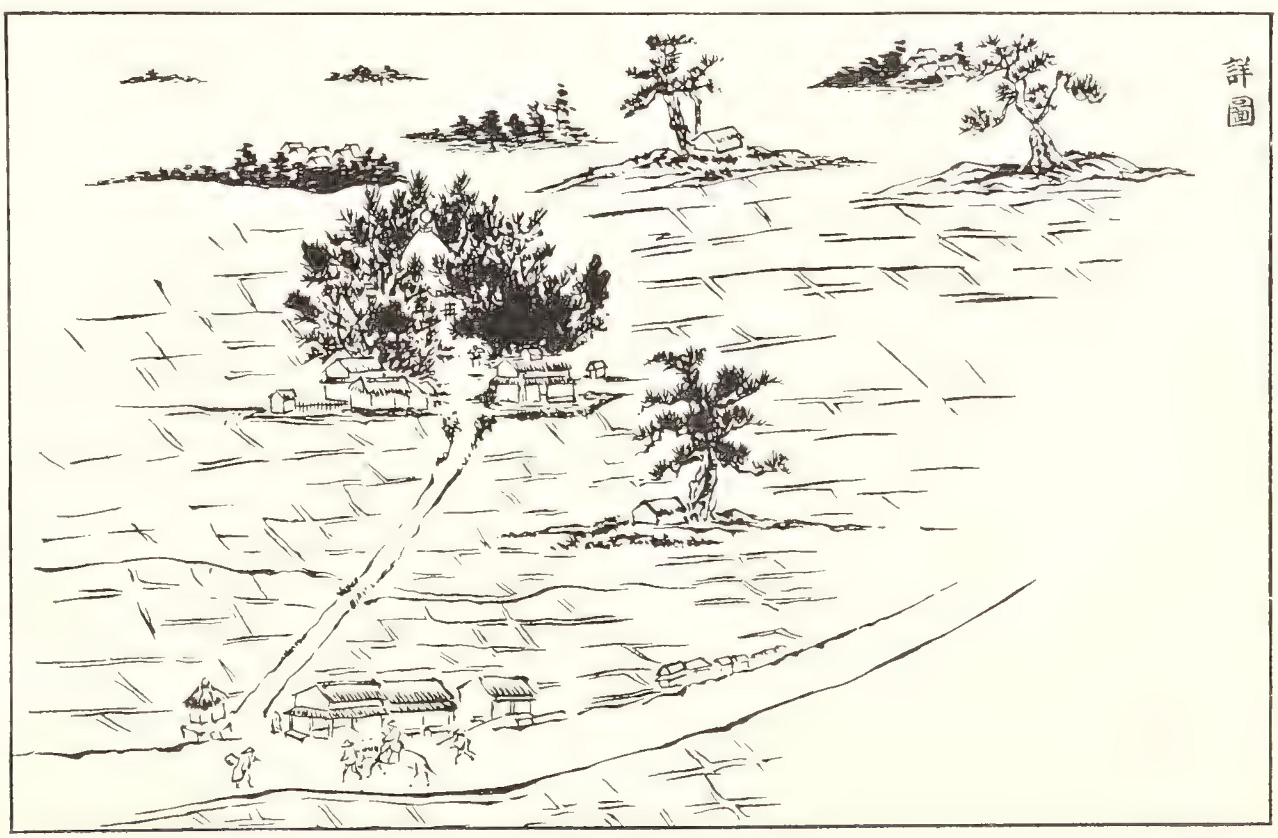
水戸齊昭書（神戸市廣嚴寺藏）

光圀の書簡に關し齊昭より廣嚴寺に遣せるもの。

第四十四圖

楠公墓域圖





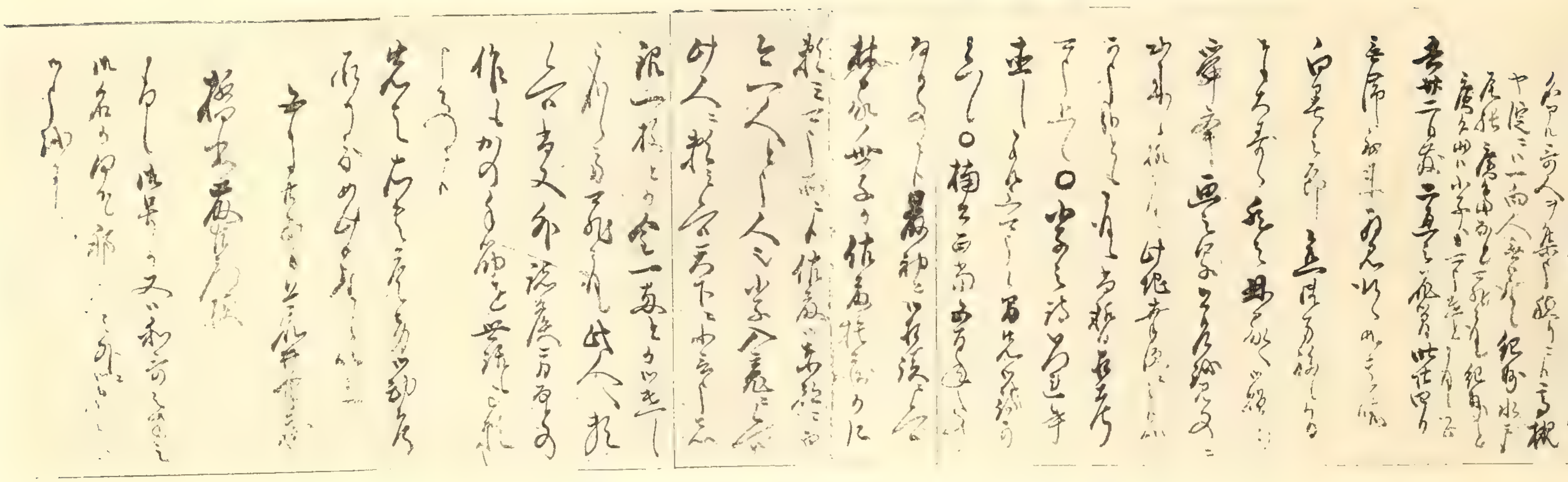
伯爵松浦厚氏藏 甲子夜話續編卷六十一所收）

本圖は天保中の楠公墓域圖にて、是れより先き文化中に始めて松林を造りたれば、天保頃に至りては頗る繁茂せるが如く、以て當時の狀を見るべし。原圖は著者平戸藩主松浦清が重臣をして見取圖を畫かしめ、之を其著書中に挿入せしものにかゝる。

第四十五圖

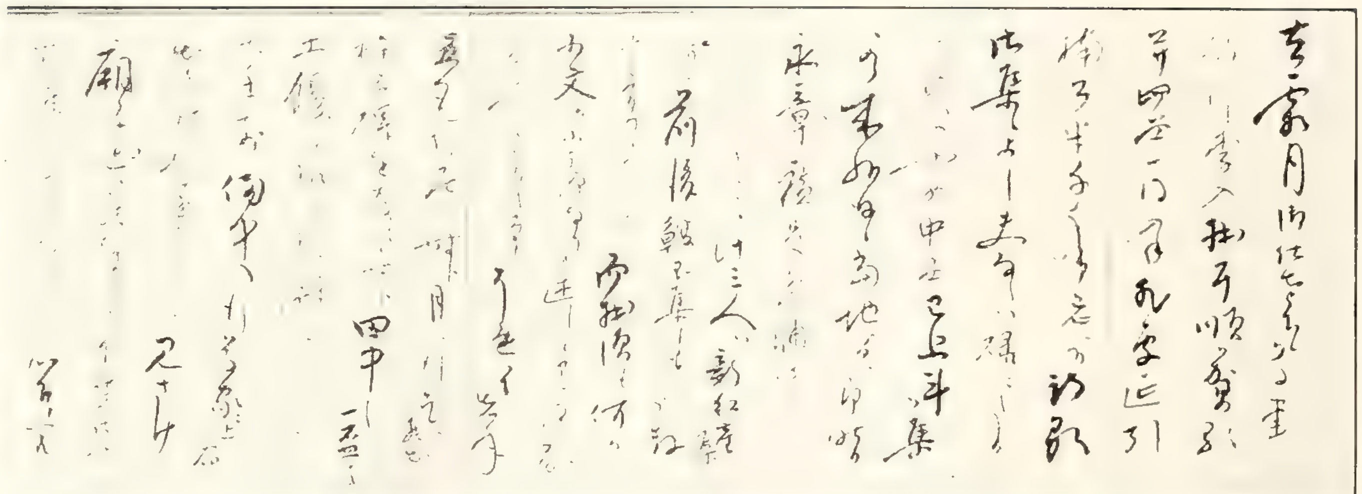
荒井公廉書狀

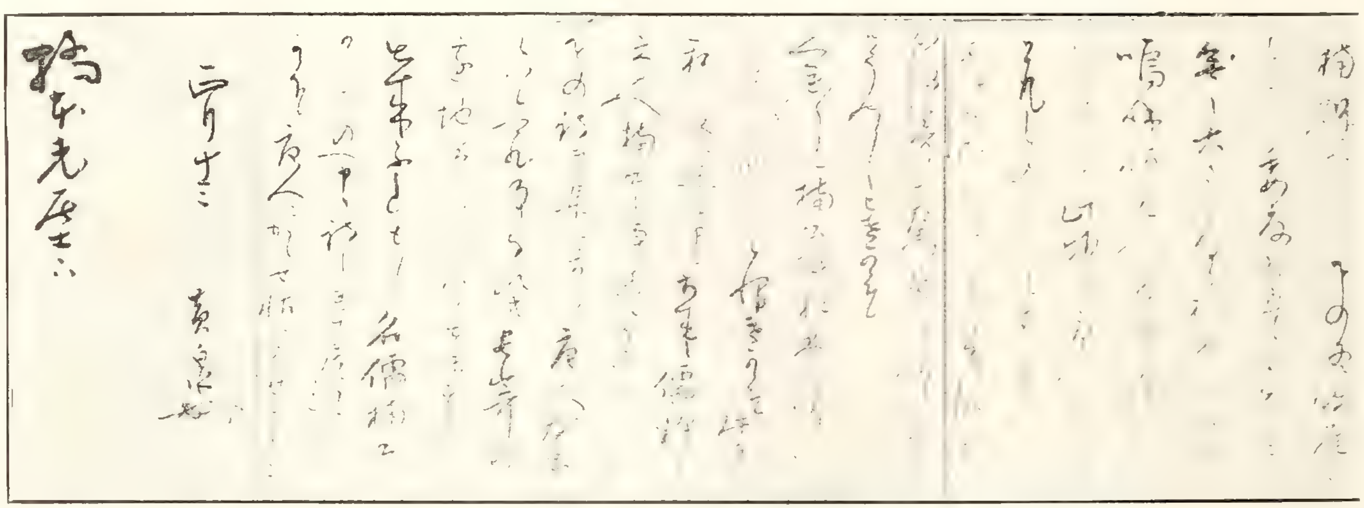
（神戸市　橋本藤三郎氏藏）



二ッ茶屋村年寄橋本藤左衛門楠公五百年祭を營まむとし詩歌を廣く諸方の儒者歌人に需むるや淀藩儒員荒井公廉大に其擧を贊く。此書狀は年忌の前年なる天保五年五月公廉の藤左衛門に寄せたるものにして其計畫の一斑を窺ふべきものなり。

第四十六圖





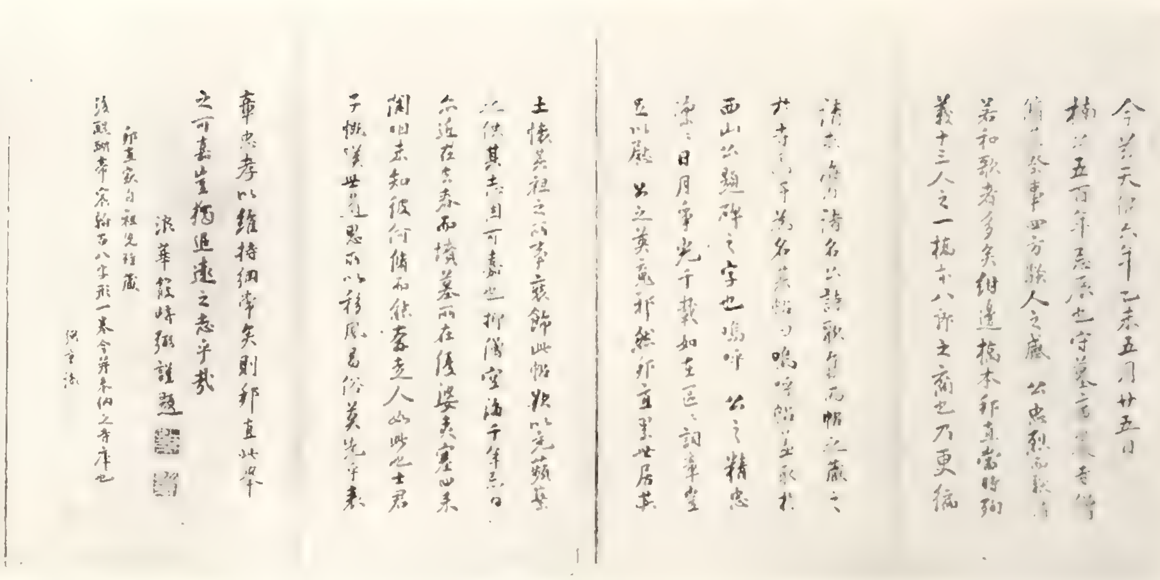
僧黄泉書狀

（神戸市　橋本藤三郎氏藏）

二ツ茶屋村橋本藤左衞門楠公五百年祭を營まんとするに當り長崎皓臺寺住職黄泉亦其擧を輔け、長崎在住の歌人等に和歌の詠進を囑せしことあり。書狀は五百年忌の前年なる天保五年正月藤左衞門に與へしもの。

第四十七圖

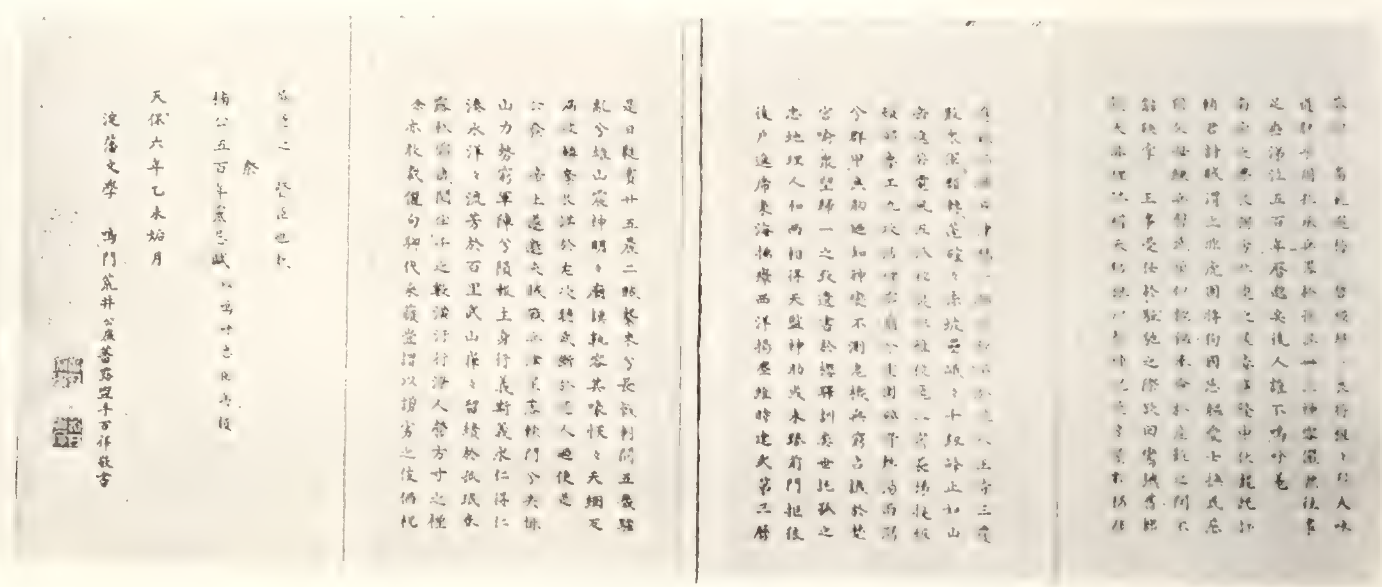
嗚呼帖の一部



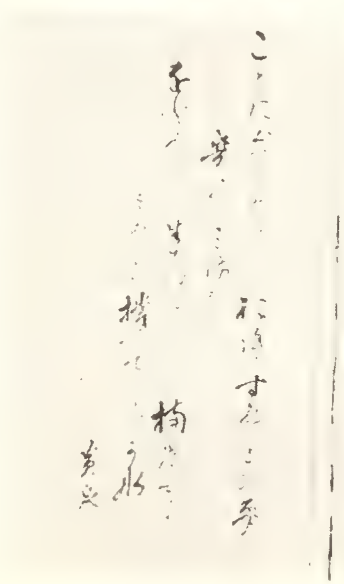
篠崎小竹の序



佐藤一齋の引



荒井公廉の文



僧黄泉の和歌

（神戸市廣嚴寺藏）

前出橋本藤左衛門の楠公五百年祭を營むや四方に詩文和歌を求め製して帖となし名づけて嗚呼帖（アコテフ）といふ。今こゝに其中の四點を掲ぐ。

第四十八圖

生田神幸繪卷

（神戶市 官幣中社 生田神社藏）



同上



原本は寛文三年八月二十日和田崎神幸次第を寫せるものにして本圖は其中より先太鼓、一番鼻高、二番神子、三番兵庫津南北兩濱より出せるねり船及神輿のみを抽出せるものなり。

第四十九圖

長田神社追儺

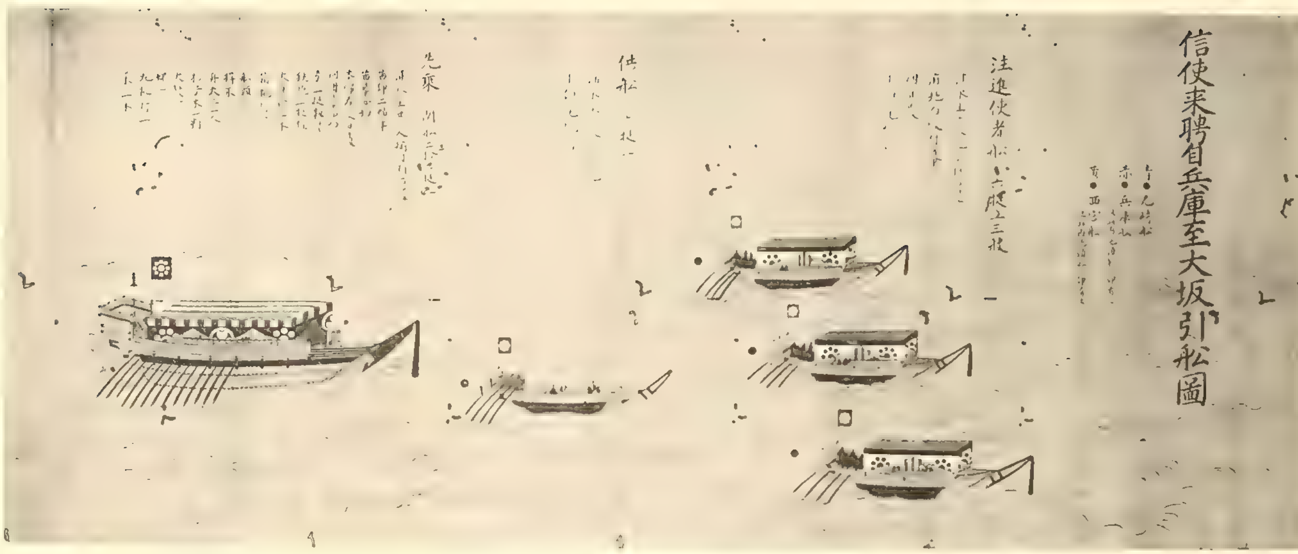


（神戸市役所藏）

官幣中社長田神社の古風なる年中行事にして一に鬼追とも云ふ。同社所藏古鬼面中には頗る年所を經たるものありと聞く。もと舊暦正月十六日に行ひしを大正元年頃より陽曆に改めて每年節分に之を營み、鬼の役七人皆氏子を以て之に充つ。

第五十圖

朝鮮信使來聘之節従兵庫大坂迄引船圖





（東京府 子爵 櫻井忠胤氏藏）

尼崎藩には朝鮮信使來朝の節兵庫より大坂まで、歸國の節兵庫より明石まで引船を出すの義務あり。ここに掲ぐるは繪卷二卷の首尾にして年代不明なり。

第五十一圖

明親館額面

（神戸市立明親小學校藏）



明治初年兵庫郷學たりし明親館の爲め有栖川宮熾仁親王の御染筆を刻す。此額他に尚二面あり、一は舊明親館に存し、他は神田兵右衛門氏の藏たり。

伊藤博文書

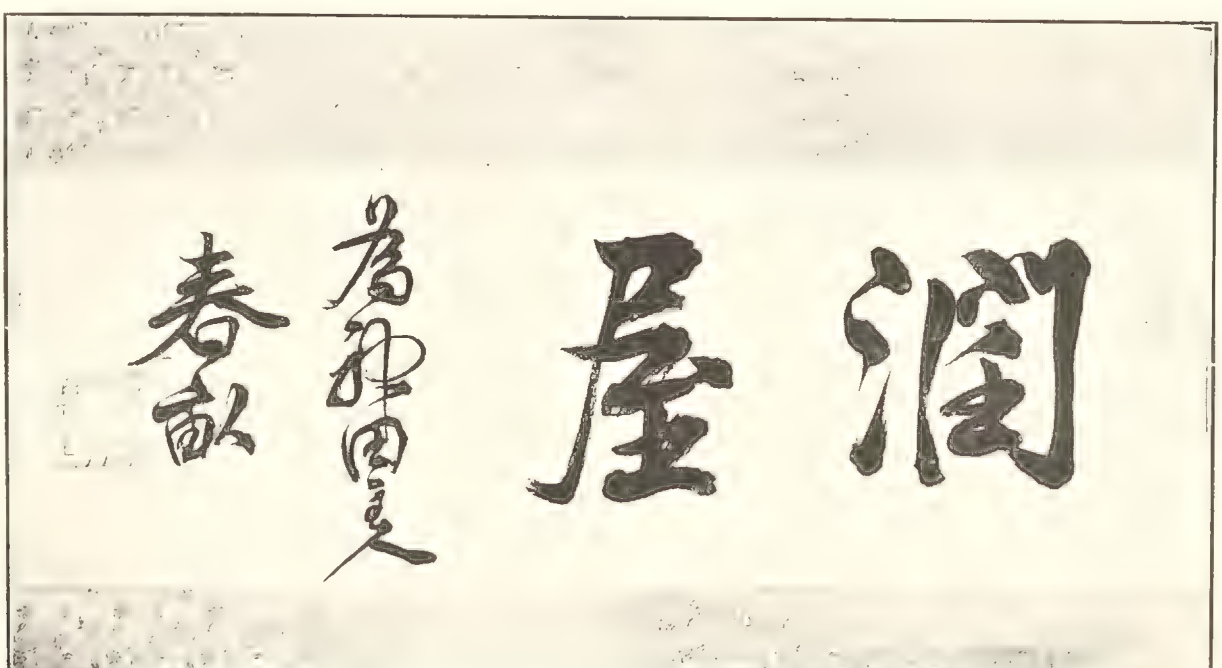
（神戸市　藤田鈫吉氏藏）



藤田積中の爲めに書せるものにて神田兵右衛門の爲めに書せるものと共に「兵庫縣印」を押捺せり。

伊藤博文書

（神戸市　神田兵右衛門氏藏）

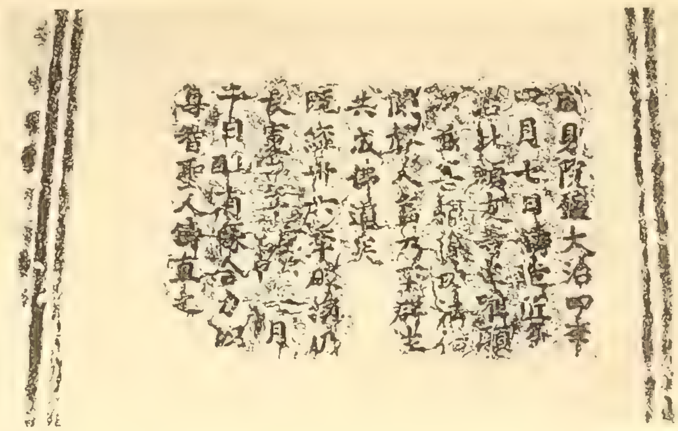


明治初年兵庫縣知事たりし伊藤俊介の書なり。

第五十二圖

德照寺鐘及鐘銘拓本

（神戸市 德照寺藏）





德照寺は神戸市中山手通八丁目にあり。鐘は大治四年の鑄造に係り國寶に指定せらる。

第五十三圖

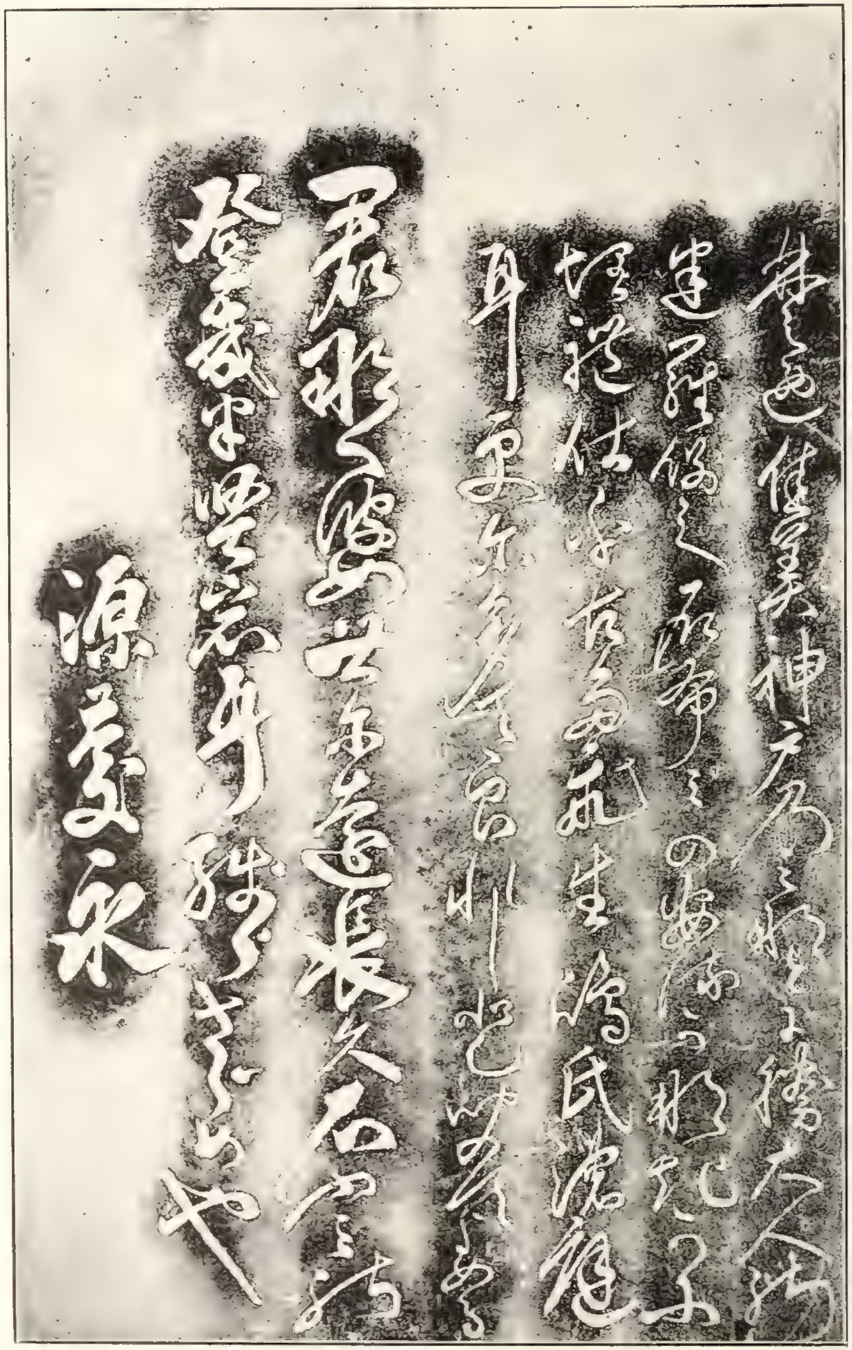
海軍營碑文原本

（神戸市 高德藤五郎氏藏）

文久三年歲次癸亥四月二十三日
大君駕火輪船巡覽攝播海濱至于神戸相其
地形命 臣義邦使作海軍營之基夫吾
邦方今急務莫急于海軍將以此營為始
英旨振起士風實在于是可謂當時之偉圖而
千載之鴻基也顧
大君踞床指畫之處恐其久而湮沒也 臣義邦
謹勒于石以貽永世云
元治元年歲次甲子冬十月八日
軍艦奉行安房守勝物部義邦撰

勝安芳自筆。碑はもと神戸村安永新田に在りしが、今諏訪山に移れり。

第五十四圖



海軍營碑陰文拓本

（神戸市　武岡豐太氏藏）

大正四年生島四郎太夫襲藏の海軍營碑を神戸區に寄附せられ之を諏訪山に建つるに當り舊福井藩主松平春嶽の和歌を碑陰に刻す。此寫眞は其拓本なり。



海軍營碑側面文拓本

（神戸市　武岡豐太氏藏）

明治十五年生島四郎太夫、福井藩士にして勝安芳と相識れる木多敬義に一文を乞ひ碑側に刻す。諏訪山建碑の時、舊碑を大石に嵌入して建てたるが爲め此文今見るを得ず。

第五十五圖

天正七年制札



（神戸市　宗國金平氏藏）

神戸市の地域は中世には上中下三ヶの庄に分れたり。中庄は東尻池西尻池を中心とする村落を含めり。

第五十六圖

猩猩池碑文拓本

（神戸市　村上五郎兵衛氏藏）



猩猩池は神戸再度山中にあり。文中村上尙善とあるは今神戸花隈町村上五郎兵衛の先祖、橋本邦直とあるは楠公五百年祭を營める二ツ茶屋村木屋藤左衛門、辻君とあるは當時兵庫附近幕府の代官たりし辻甚太郎にして、撰文者は荒井公廉なり。

第五十六圖

猩猩池碑文拓本

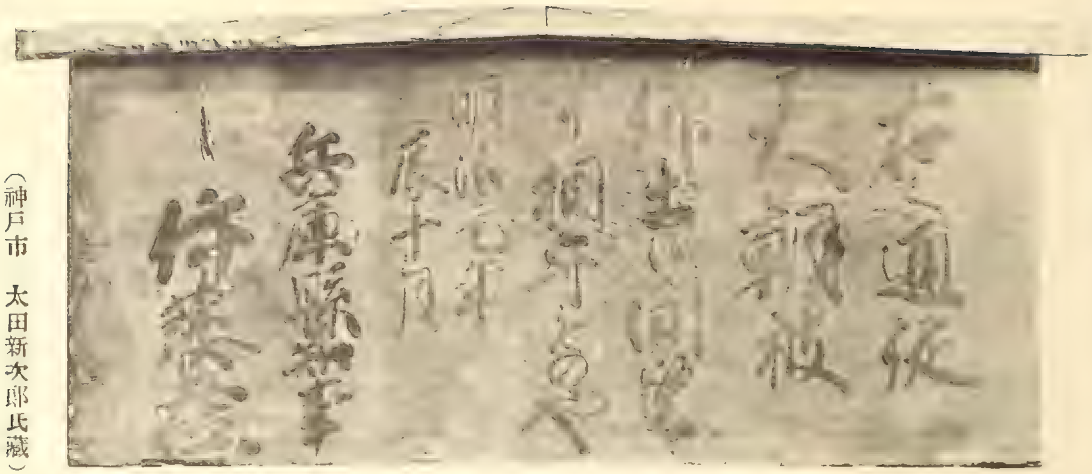
（神戸市　村上五郎兵衞氏藏）



猩猩池は神戸再度山中にあり。文中、村上尙善とあるは今神戸花隈町村上五郎兵衞の先祖、橋本邦直とあるは楠公五百年祭を營める二ツ茶屋村木屋藤左衞門、辻君とあるは當時兵庫附近幕府の代官たりし辻甚太郎にして、撰文者は荒井公廉なり。

第五十七圖

伊藤兵庫縣知事制札



（神戸市　太田新次郎氏藏）

兵庫外事掛掲札



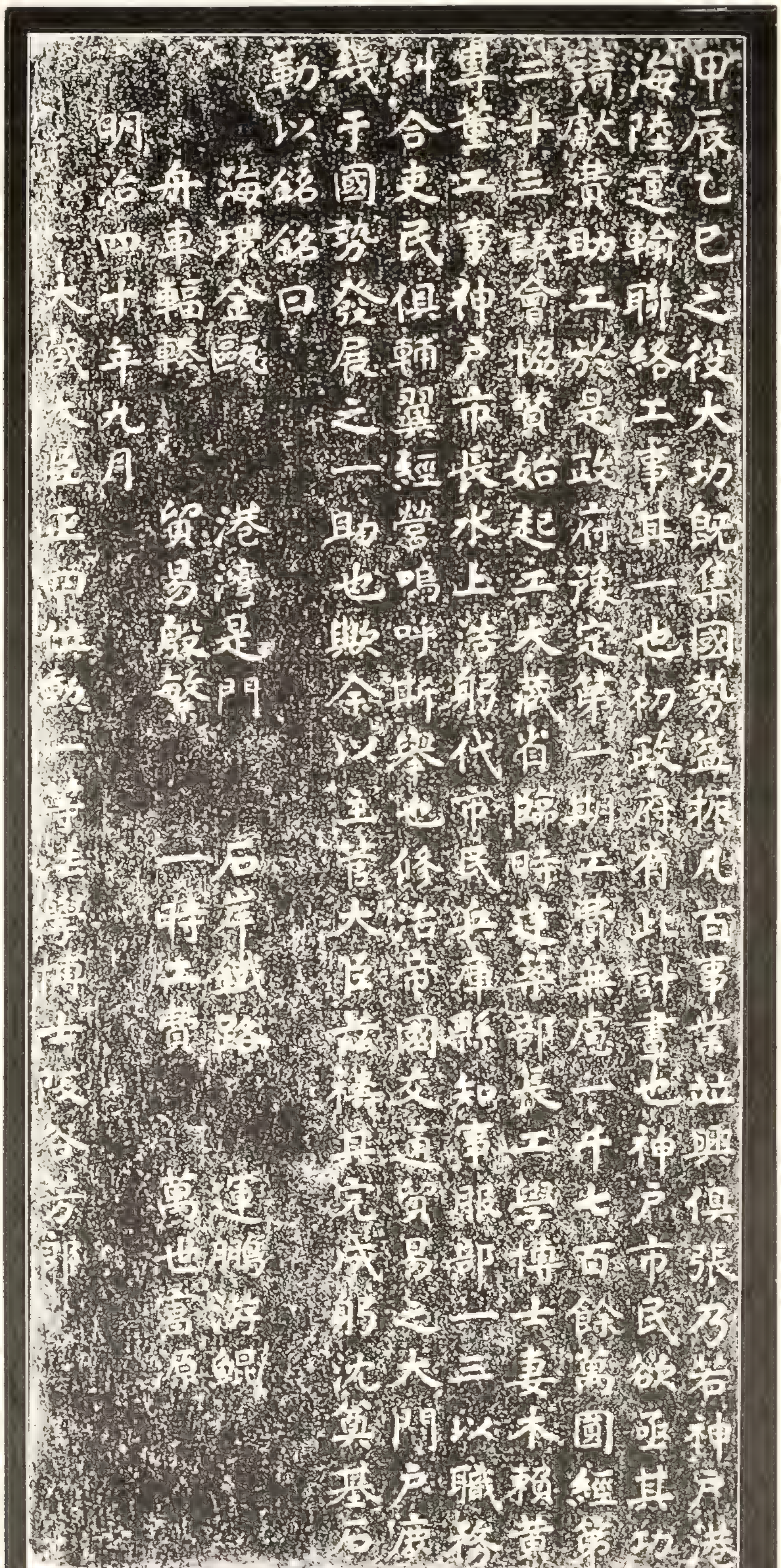
（兵庫縣廳藏）

明治初年清國人某に書せしめ、東運上所（今神戸税關）入口楣間に掲げたるものなり。

第五十八圖

築港銘文拓本

（神戸市　壁谷友太郎氏藏）



明治四十年九月十六日多年の懸案解決して神戸築港起工式を小野濱に擧ぐるに當り、時の大藏大臣阪谷芳郎の撰文を刻せる基石を沈奠す　其拓本卽ちこれなり。

第五十九圖

明治初年の湊川及其附近

（其一）



（其二）



ジャパン・クロニクル社藏

其一は湊川新町橋今の湊川新開地聚樂館前附近、其二は湊川堤防今の湊川公園附近、共にジャパン・クロニクル社編「ヒストリー・オブ・コーベ」に收む。

大正十二年三月廿五日印刷
大正十二年三月廿八日發行

編纂兼發行者　神戸市役所

東京府荏原郡世田谷町字下町五十番地
印刷者　大久保秀次郎

東京市京橋區築地二丁目十七番地
印刷所　株式會社東京築地活版製造所